

なかうみ しんじこ
中海・宍道湖圏域の道路ネットワークについて

令和6年 12月23日

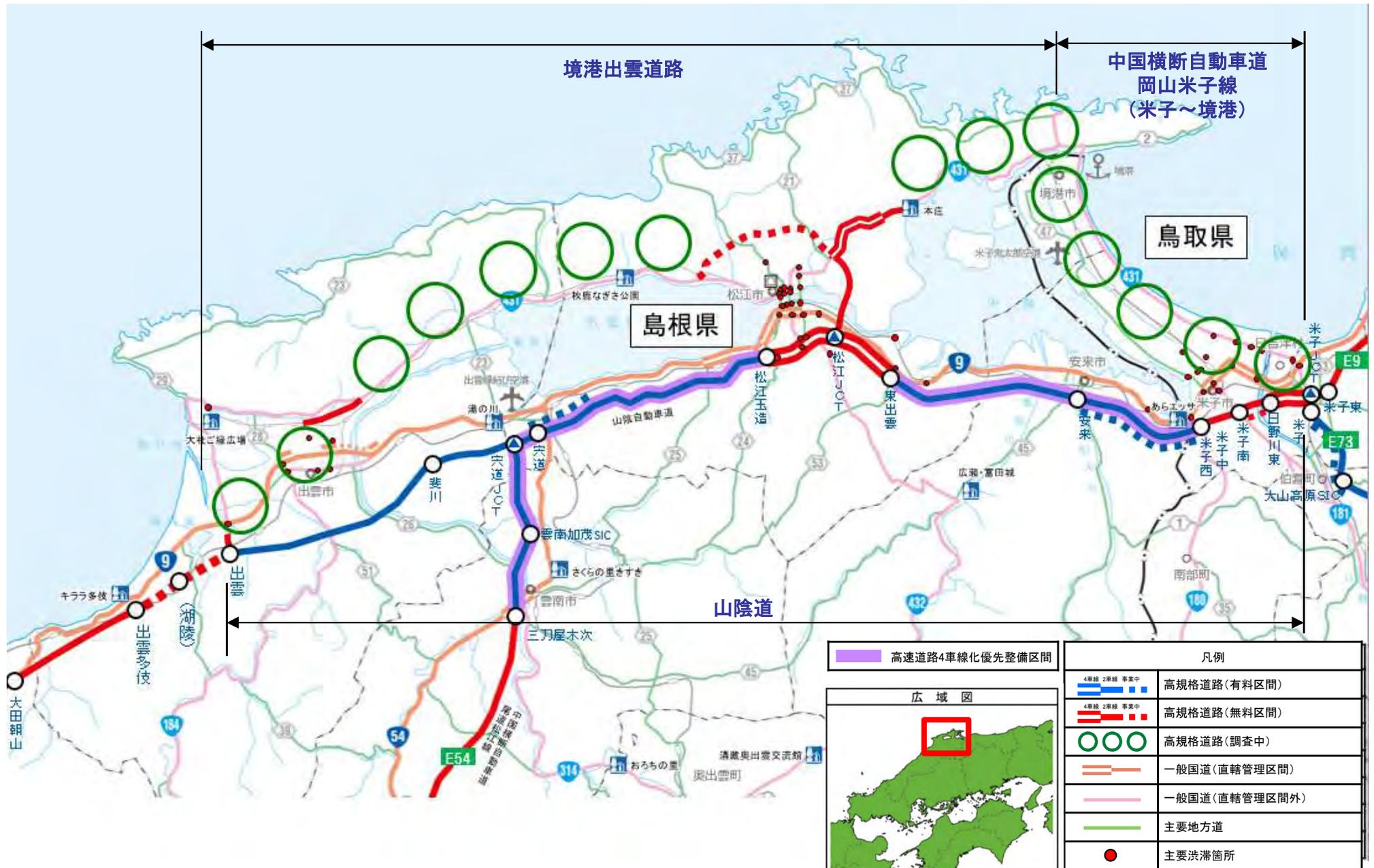
国土交通省 中国地方整備局

1. 圏域の現状等	2
2. 圏域の道路ネットワーク状況	14
3. 地域の将来像	18
4. 中海・宍道湖圏域における近年の検討状況	24
5. 中海・宍道湖圏域の道路ネットワークの必要性	31

1. 圏域の現状

(1) 位置図

● 中海・宍道湖8の字ネットワークは、中国横断自動車道、山陰道、境港出雲道路からなる、松江市、出雲市、安来市、米子市、境港市、日吉津村を8の字に結ぶ高規格道路ネットワークである。



1. 圏域の現状

(2) 計画の概要・経緯

- 令和2年度より行政による勉強会や、令和4～5年には経済界による効果分析検討会が開催されている。
- 令和5年度には圏域の活性化をテーマにシンポジウムが開催されるなど機運が高まっている。

令和2年
中海・宍道湖圏域道路整備勉強会

令和4～5年
中海・宍道湖8の字ネットワーク整備
による効果分析検討会

令和5年
中海・宍道湖8の字ルート
整備推進会議設立

令和5年
中海・宍道湖・大山圏域
活性化シンポジウム



シンポジウム開催概要

【開催日】 令和5年10月3日(火) 13時30分～
【会場】 松江テルサ
【参加人数】 約350名
【主催】 NPO法人全国街道交流会議、中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議、
島根県、鳥取県

<主催者挨拶>



伊木隆司 米子市長
中海・宍道湖8の字ルート整備推進会議会長

中海・宍道湖・大山圏域は60万人の人口
集積地であるが、人口換算地であったイン
フラは必ずしも整備されていない。
8の字ルートの整備をきっかけに地域を
発展させたい。



丸山達也 島根県知事

我々は志をもって整備が進むタイミング
を逃さないよう夢を持ち行動することが大
胆であることを教わった。
関係自治体、経済界と連携し皆さんと協
力して取り組んでいきたい。



上定昭仁 松江市長

8の字整備促進のスタートポイントにたっ
たところ、今後は、整備促進会議として国
土交通省をはじめとした中央の政治家の
皆様にご要望をしていく。
整備の気運を高めていきたい。

鼎談・パネルディスカッション



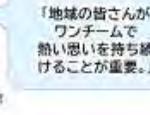
石田 顕生
鳥取大学名誉教授



斎 昌文 内閣府大臣補佐官



森田 健哉
双葉研究大学院大学名誉教授



田部 長右衛門
松江商工労働会会長



藤本 貴也
NPO法人全国街道交流会議代表幹事



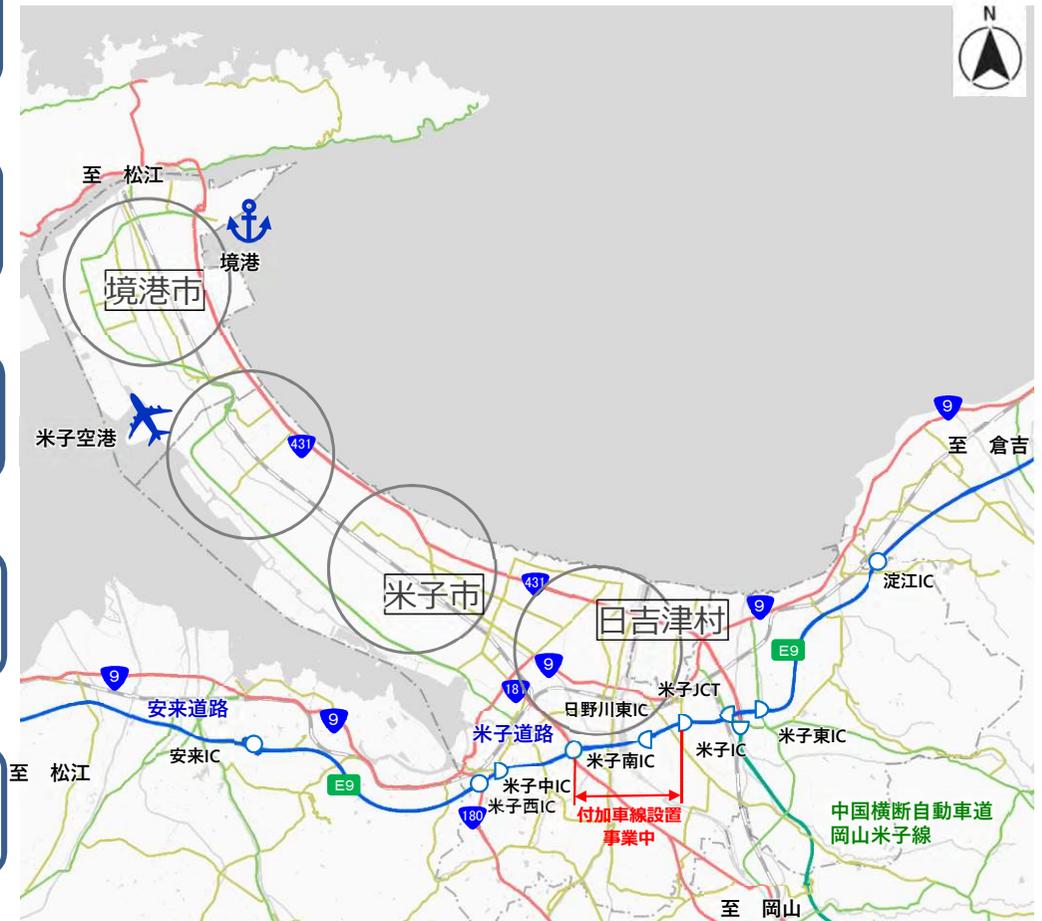
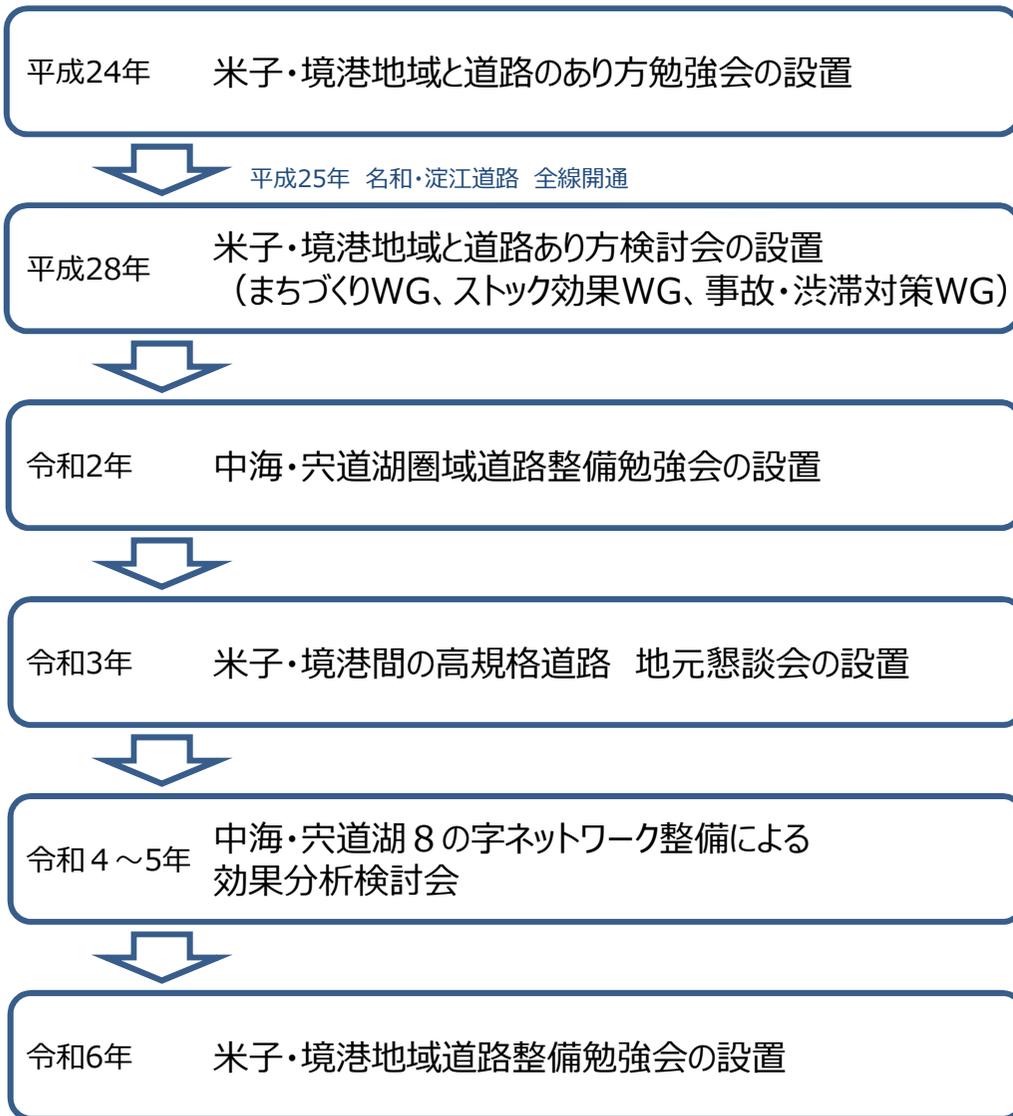
田部 長右衛門
松江商工労働会会長

「地域の皆さんが
ワンチームで
熱い思いを持ち続
けることが重要。」

1. 圏域の概要

(2) 計画の概要・事業の経緯（米子・境港地域）

- 平成24年に米子・境港地域と道路のあり方勉強会を設置し、検討が進められてきた。
- 令和3年には、行政、商工、観光および学識経験者による地元懇談会が設置されている。
- 令和6年には、行政による米子・境港地域道路整備勉強会が開催され、社会情勢の変化や高規格道路の必要性、配慮すべき事項がとりまとめられた。



1. 圏域の現状

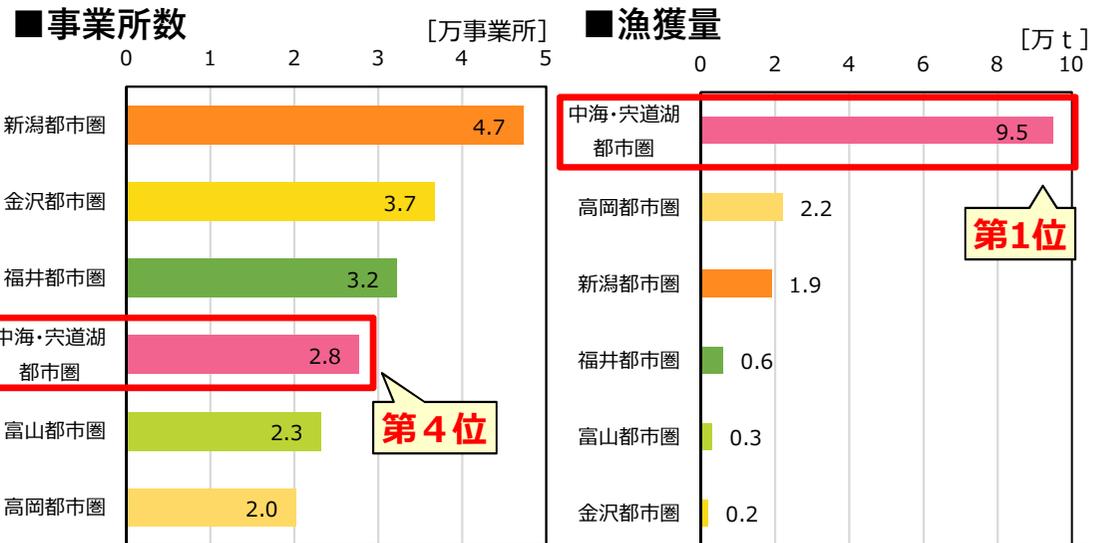
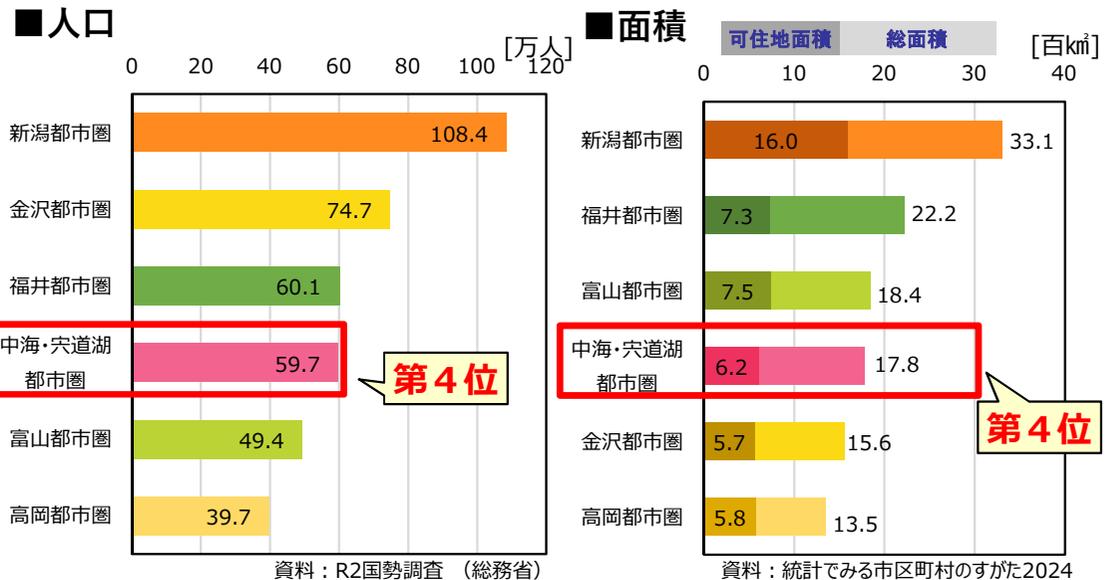
(3) 他圏域との比較

- 中海・宍道湖圏域の人口は約60万人であり、総面積、可住地面積及び事業所数において日本海側の主要都市圏の中で第4位の規模を誇る西日本有数の主要都市圏である。
- 特に漁獲量は、日本海での漁業だけでなく、中海・宍道湖の内水面漁業も盛んであり、日本海側の主要都市圏で第1位となっており、シジミやカニの漁獲量は、日本一である。



資料：H27国勢調査（総務省）

※各圏域の構成市町村は「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」より



資料：令和3年経済センサス-活動調査

資料：H30海面漁業生産統計調査

※全魚種の漁獲量

1. 圏域の現状

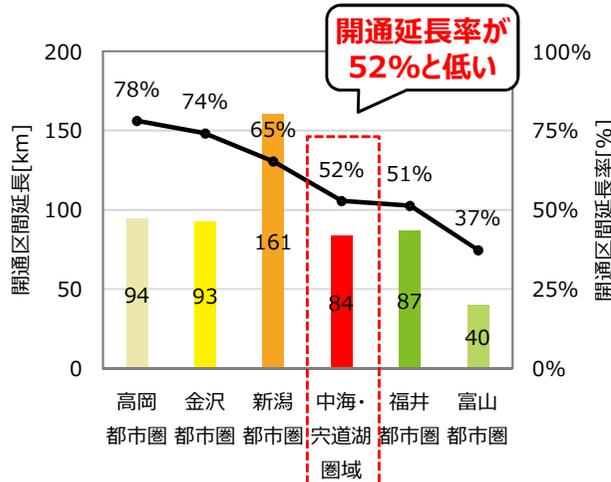
(3) 他圏域との比較

- 中海・宍道湖圏域の高規格道路の開通延長率は約52%となっており、また、4車線化整備率は約7%と低く日本海側の主要都市圏の中で最も劣る状況である。
- 生産年齢人口あたりの付加価値額及び製造品出荷額は日本海側の主要都市圏の中で低い状況であり、経済活動を支える高規格道路ネットワークの整備が望まれている。

■ 各都市圏の位置と人口規模

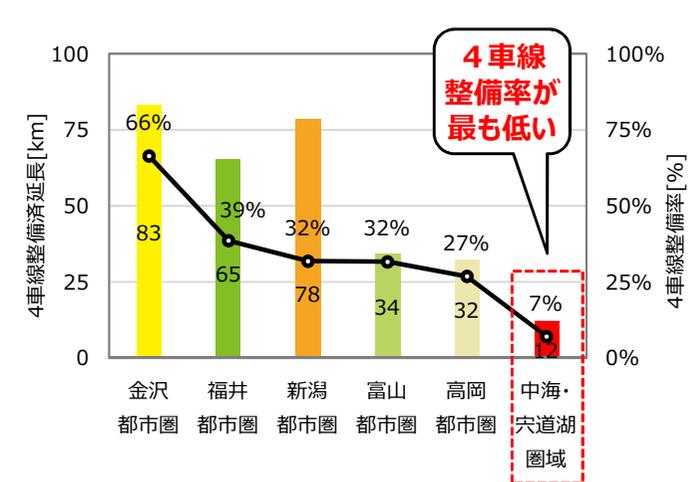


■ 高規格道路の開通状況



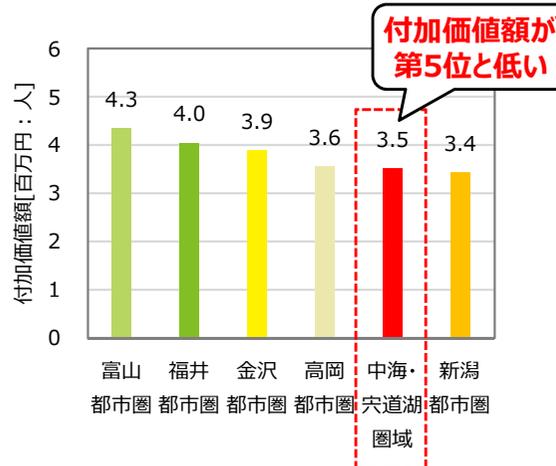
資料：R3全国道路・街路交通情勢調査
 国土交通省資料

■ 4車線整備の状況



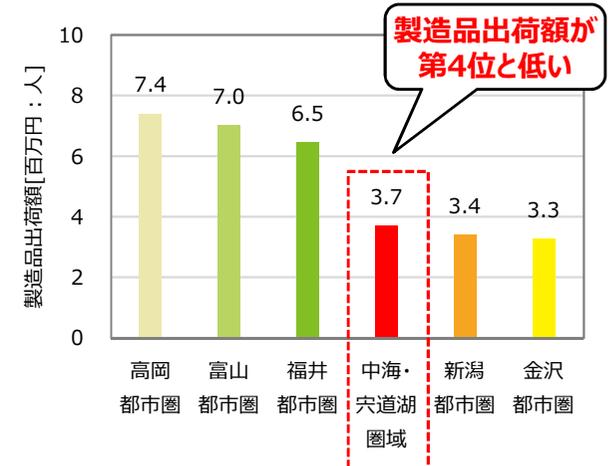
資料：R3全国道路・街路交通情勢調査

■ 付加価値額 (生産年齢人口あたり)



資料：<付加価値額> 経済センサス (2021年)
 <生産年齢人口> 国勢調査 (2020年)

■ 製造品出荷額 (生産年齢人口あたり)



資料：<製造品出荷額> 工業統計調査 (2023年)
 <生産年齢人口> 国勢調査 (2020年)

1. 圏域の現状

(4) 圏域の状況

- 当該圏域は、人口・総生産共に鳥取・島根県の約5割を占め、数多くの観光資源や複数の空港・港湾を有しており、インバウンドを含めた観光客による交流人口の増加が期待されている等、山陰地方の発展を牽引するポテンシャルを秘めている。
- また、圏域内の高規格道路は、ミッシングリンクの存在や、開通済区間においても暫定2車線が主であり、有料・無料区間が混在している状況である。



※鳥根県：鳥根県観光動態調査結果、水木しげるロード：さかのみなとポータル 皆生温泉：温泉地入湯客数(鳥取県HP)より

1. 圏域の現状

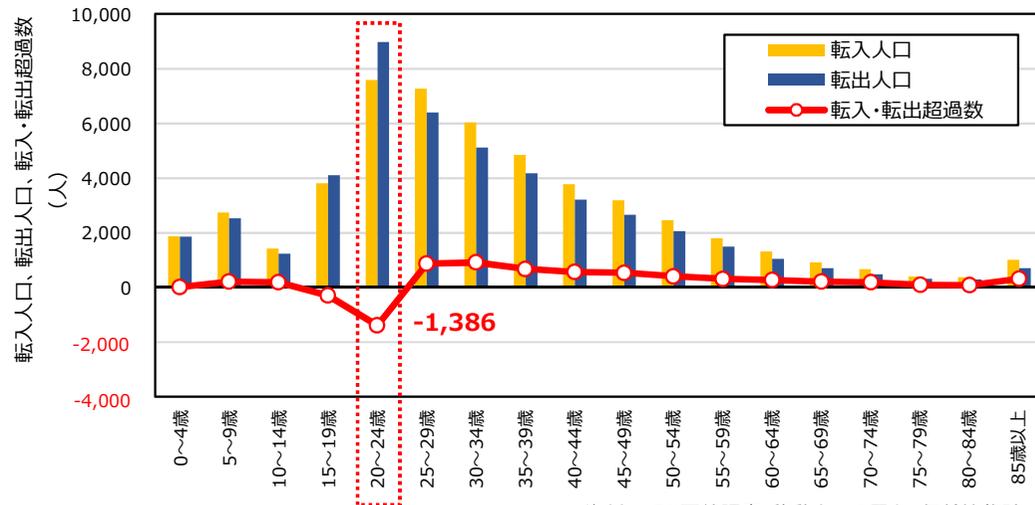
(5) 人口

- 中海・宍道湖圏域の人口推移は、全国平均、中国地方平均、日本海都市圏No1の新潟都市圏と同様に、緩やかに減少することが想定されており、特に20代前半の転出が顕著である。
- 高齢化率も全国平均、中国地方平均、新潟都市圏の傾向と同様に増加することが想定されており、圏域の生産年齢人口の減少が懸念される。

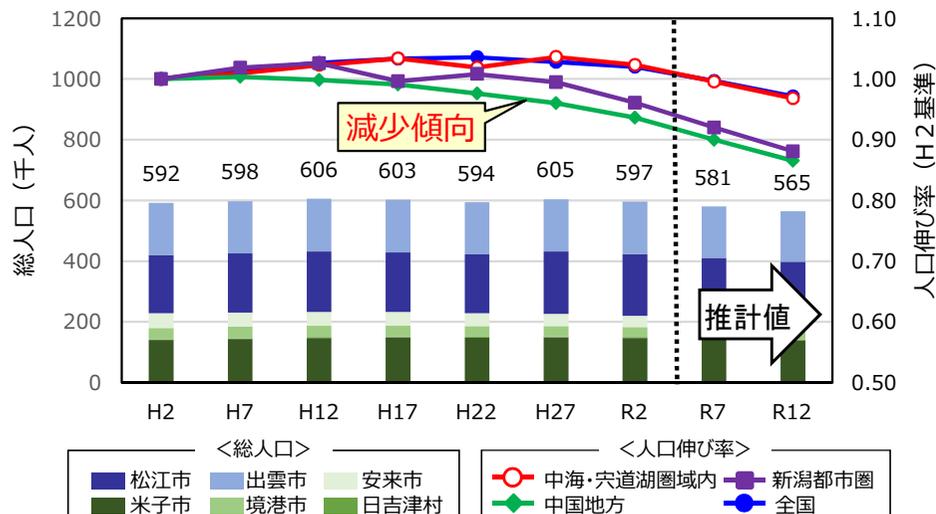
沿線地域の人口分布



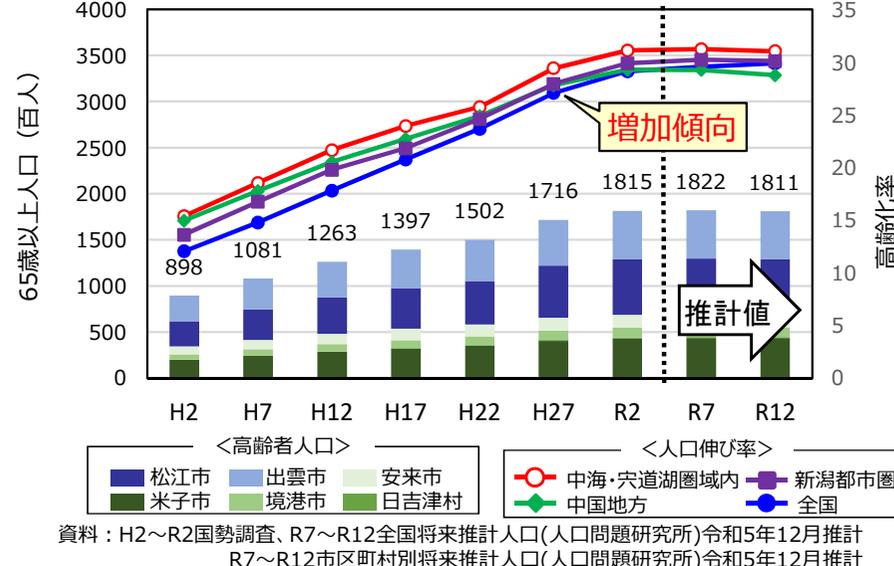
転入・転出人口 [中海・宍道湖圏域内の市村の転入・転出人口 (H27⇒R2)]



人口推移 [中海・宍道湖圏域内の市村と全国の人口推移]



高齢化率推移 [中海・宍道湖圏域内の市村と全国の高齢化率推移]



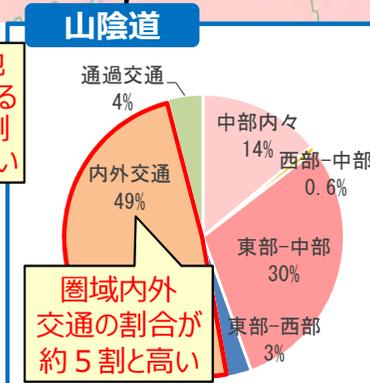
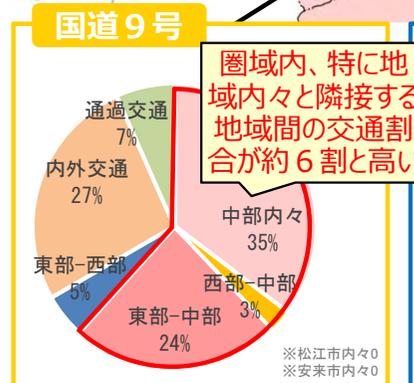
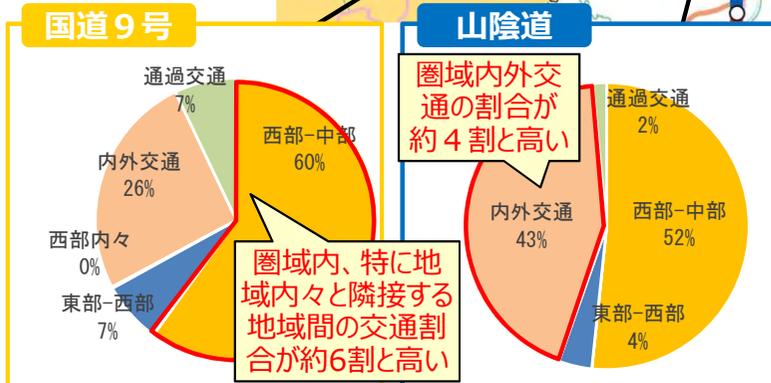
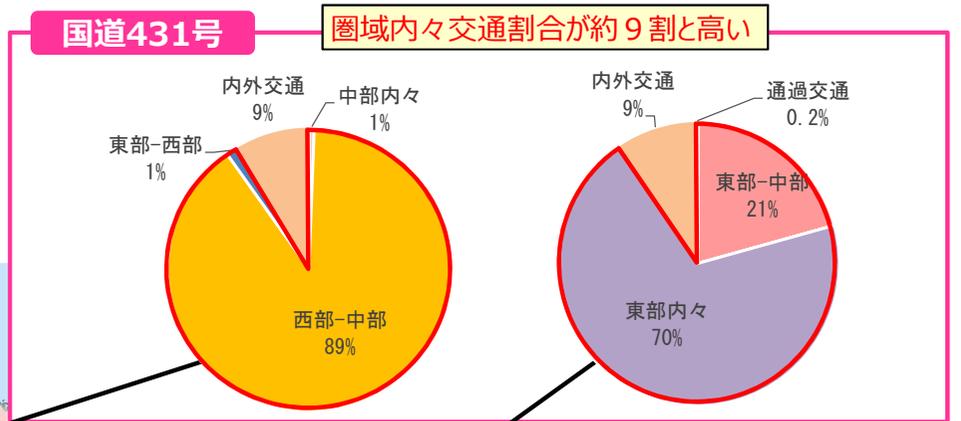
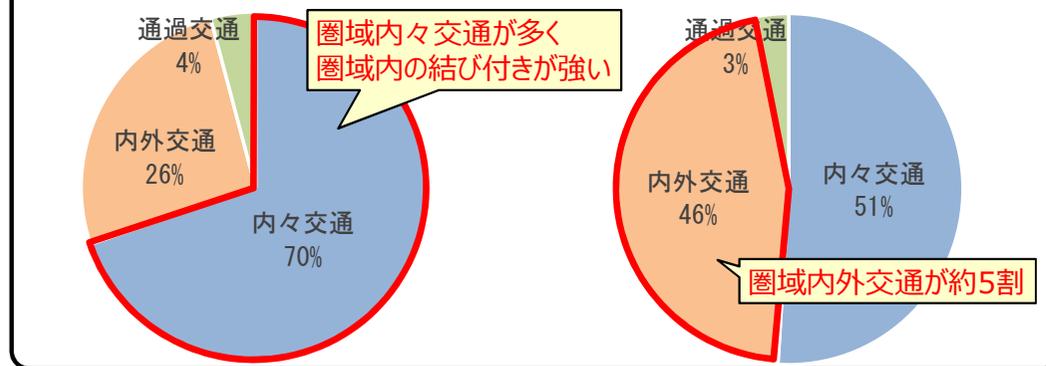
1. 圏域の現状

(6) 地域の繋がり

- 当該圏域内における交通流動は、圏域内々交通の割合が約7割と高く、圏域内の結び付きが非常に強い。
- 一方で、山陰道では圏域内外交通の割合が約5割を占めており、各路線において交通の質が異なっている状況にある。

■ 圏域内主要幹線道路のOD内訳

【OD内訳(山陰道・国道9号・国道431号合計)】 【OD内訳(山陰道合計)】



資料：OD内訳：平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 H27現況交通量推計結果
 ※内々：中海・宍道湖圏域内
 内外：中海・宍道湖圏域⇄その他地域
 通過：その他地域⇄その他地域

中海・宍道湖圏域
 出雲市、松江市、安来市、米子市、境港市、日吉津村
 ※西部：出雲市 中部：松江市、安来市 東部：米子市、境港市、日吉津村

資料：交通量：令和3年度全国道路・街路交通情勢調査

1. 圏域の現状

(8) 地域の産業構造

- 中海・宍道湖圏域には多数の工業団地が立地しており、国道9号・山陰道沿線の工業団地は既に分譲済みとなっている。一方で、宍道湖北側の国道431号沿線の工業団地は、高規格道路へのアクセス性が低いことなどから大半が現在も分譲中となっており、中海・宍道湖の南北で分譲状況に差が生じている。
- 工業団地への企業集積が進み、産業や地域が連携することで、更なる発展が期待される。

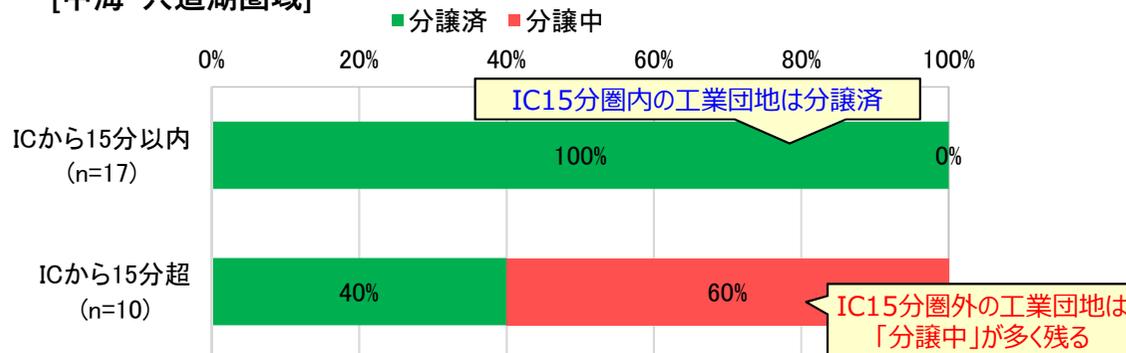
■ 高速ICのアクセス時間カバー圏域



出典: 島根県立地情報ポータルサイト・しまねスタイル

■ 工業団地の分譲の状況と高速ICからのアクセス時間の関係

[中海・宍道湖圏域]



地域の声

[松江市の企業立地部署産業支援部署等内部聞き取り R2.12.9実施]

- 島根県北部の工業団地は高速道路へのアクセス性が悪く敬遠される。一般道は走行性が悪く精密機械の輸送に影響する。
- 高規格道路とのアクセスが向上すれば、積極的な誘致が図れ、企業立地や雇用創出、人口減少対策につながる。
- 境港へのアクセスが向上することで、コンテナ利用による輸送の効率化が図られ、航路を利用する企業の誘致につながる。

1. 圏域の現状

(9) 観光

● 中海・宍道湖圏域内には、出雲大社、水木しげるロード等の有名な観光地の他に、年間30万人を集客する魅力的な観光地も多数存在しているが、1～2箇所の訪問が全体の約8割を占める等、観光地間のアクセスに時間を要するため周遊観光に課題があり、圏域内の各地が連携し周遊できるような高規格道路軸の強化が必要である。

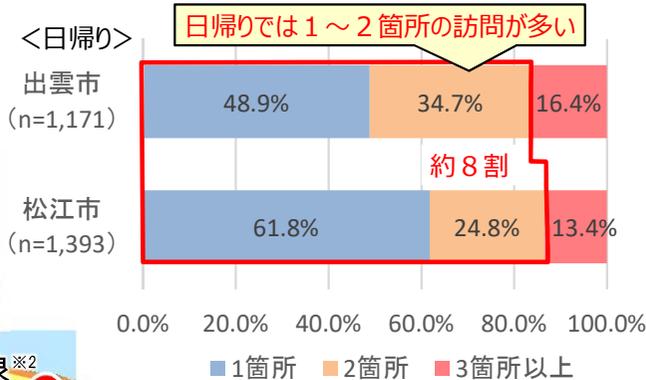
■ 主要観光地間の所要時間・距離と時間圏域

山陰道経由より距離は短い、高規格道路ネットワークが整備されていないため、時間を要する

- 出雲大社から1時間圏域
- 皆生温泉から1時間圏域
- 出雲大社・皆生温泉から1時間圏域



■ 出雲市・松江市来訪者の周遊動向 (訪問箇所数割合)



資料：令和4年度出雲市観光動態調査業務報告書
令和4年松江市観光動態調査結果を基に作成

観光客の声

広島からだ、どうしても1泊か2泊しないと、島根を回るのは大変。日帰りだと目的地を決めて、そこだけに出掛けないと無理がある。交通の便が良くなると時間に余裕が出来ると思う。今回は日帰りで出雲大社周辺が中心の観光だったが、温泉津温泉、玉造温泉はぜひ行ってみたい。ちょっと足をのばして、皆生温泉も良いですね。

資料：R1観光アンケート調査結果（松江国道事務所）

◆ 出雲縁結び空港の最新動向

- 2024年5月に12年ぶりにベトナムハノイチャーター便が運航され、2025年3月にも運航予定
- 今後も国際定期便の就航に向け県の取組みが予定されており、出雲空港のゲートウェイ機能の更なる強化が期待されている

※観光客が概ね30万人以上の観光地をプロット

資料：所要時間・距離：R3全国道路・街路交通情勢調査結果の混雑時旅行速度より算出

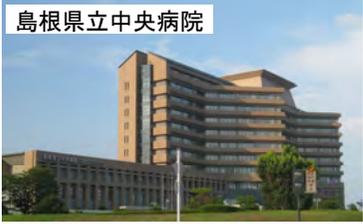
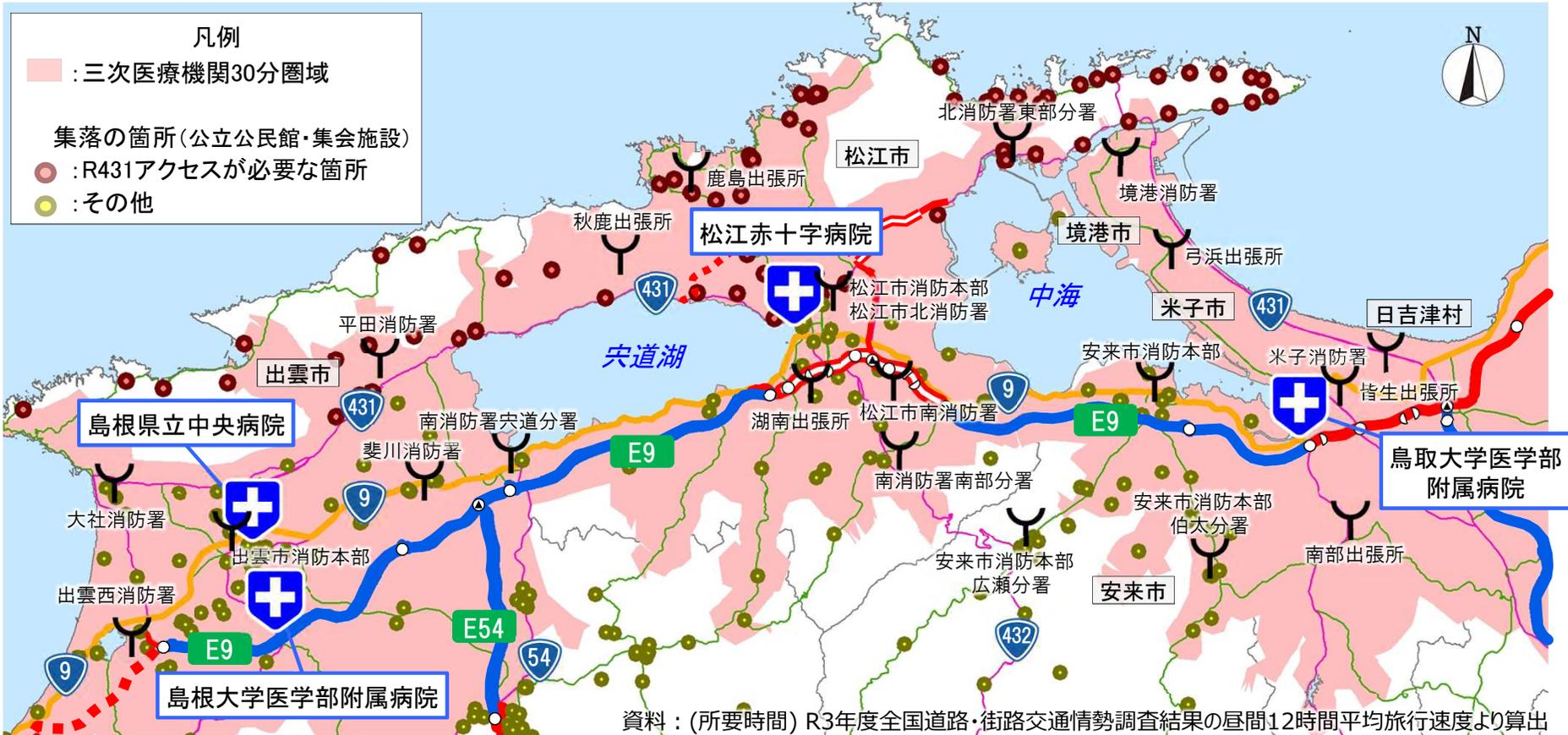
写真：※1しまね観光ナビ 島根県観光写真ギャラリーより ※2 各施設の許諾を得て掲載

1. 圏域の現状

(10) 医療

- 当該圏域内には、鳥取・島根県の7割にあたる4つの三次医療機関が立地しており、圏域内の救急搬送人員数は増加傾向であり、特に三次医療機関がない安来市においては、米子市との結び付きが強い。
- 島根半島部においては、三次医療機関に30分で到達できないエリアが多く存在しているとともに、“救急搬送時の速達性・確実性が確保されておらず、安静搬送に問題がある”等の声が関係者から挙げられている。

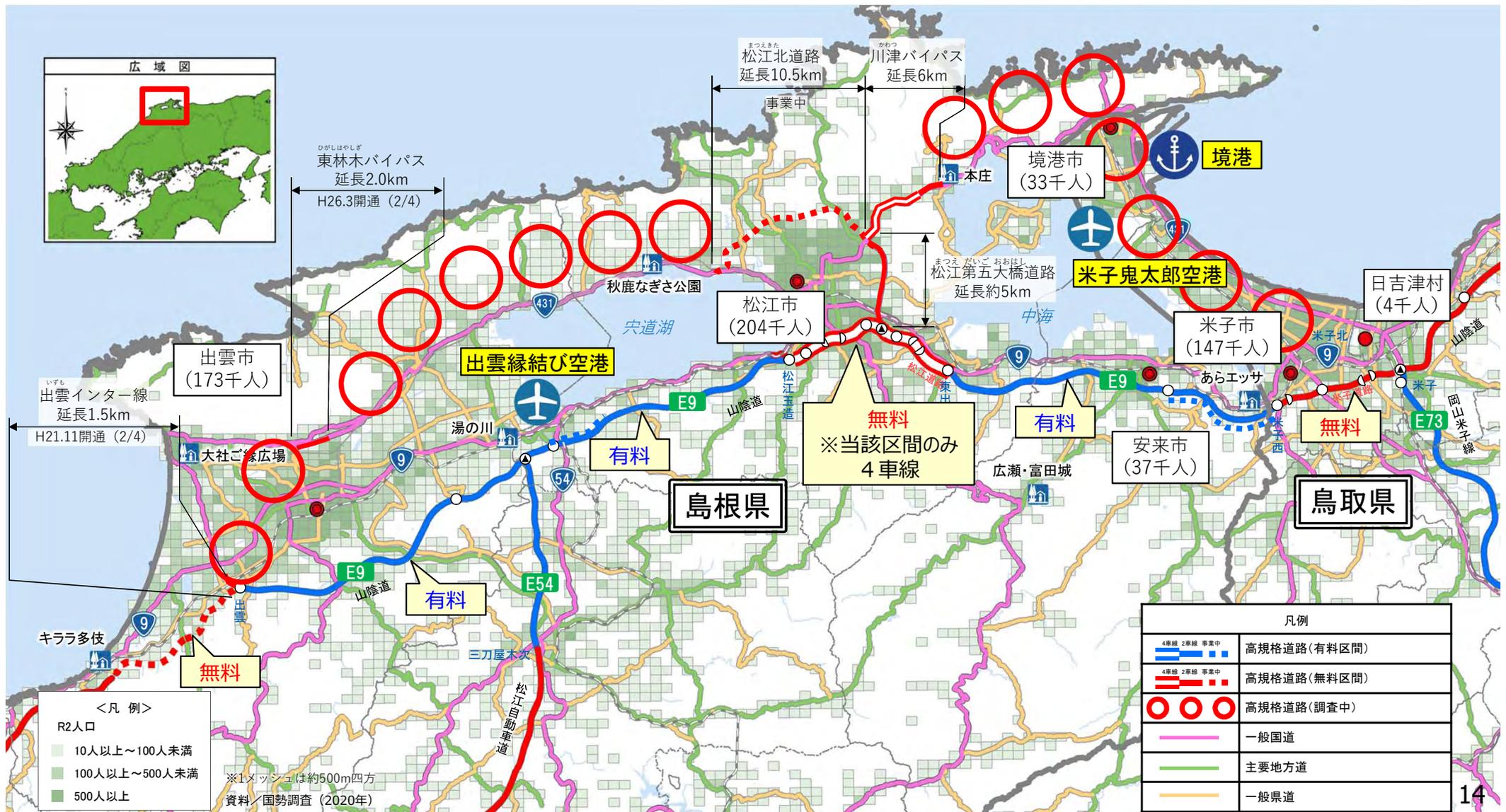
■ 三次医療機関のカバー圏



・救急患者と医師の接触時間の短さが救命率と深く関係している。
 ・ドクターカーを運用しているが、一般道は交差点も多く、ドクターカーの平均走行速度が約30km/hと遅い状況。
 <鳥取大学医学部附属病院> (R2ヒアリング結果)
 ・搬送中も処置を行う救急車は揺れを極力抑える必要がある。
 <鳥取県西部広域行政管理組合> (R1ヒアリング結果)

2. 圏域の道路ネットワーク状況

- 山陰道、国道9号が位置する中海・宍道湖圏域南側だけでなく、北側においても人口が集積するエリアが広がっているが、高規格道路ネットワークの整備が進んでいない。
- 米子～出雲間の山陰道は全線開通済みであるが、有料・無料の区間が混在している。
- 松江市域においては、山陰道のほかに松江第五大橋道路、川津バイパスが供用中であり、松江北道路が事業中である。
- 出雲市域においては、山陰道のほかに出雲インター線、東林木バイパスが供用されている。
- 米子市・境港市域では山陰道が供用されているのみであり、圏域全体の中でも整備が進んでいない地域となっている。

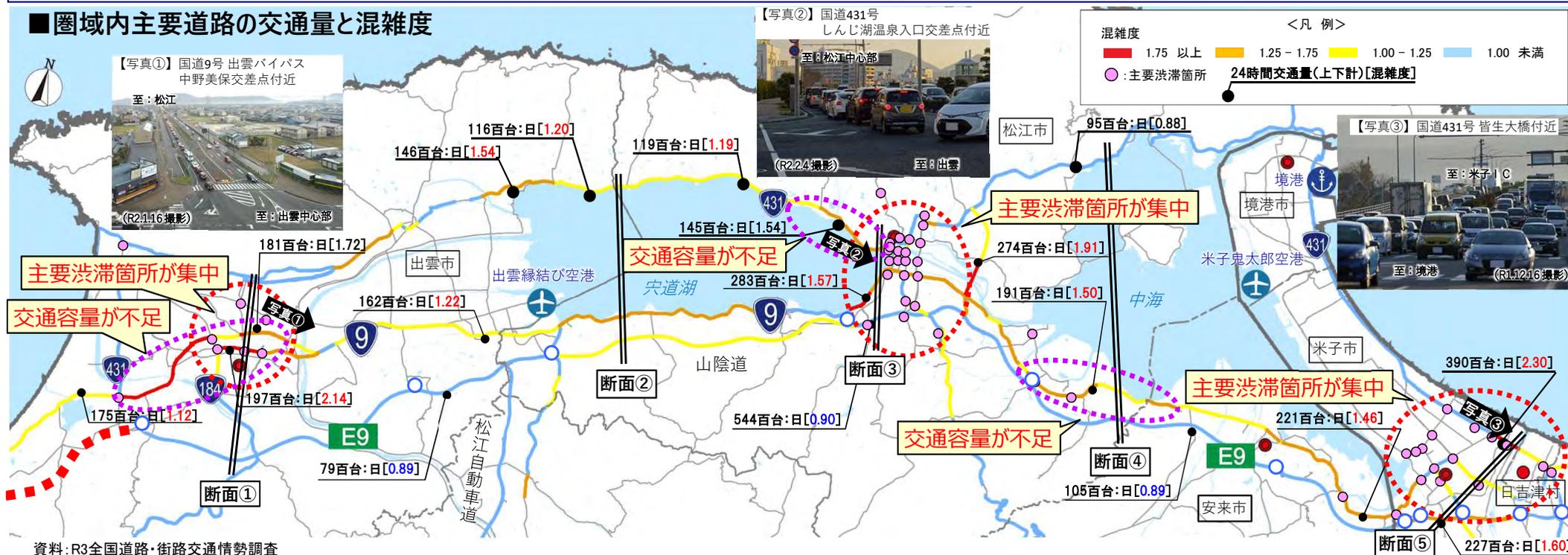


2. 圏域の道路ネットワーク状況

(1) 交通量と混雑度

- 中海・宍道湖圏域内の出雲、松江、米子中心部では、主要渋滞箇所が集中して存在している。
- 国道9号、国道431号等の圏域の中心都市間を結ぶ主要な断面においては、年々交通量が増加しており、交通容量が不足している状況である。

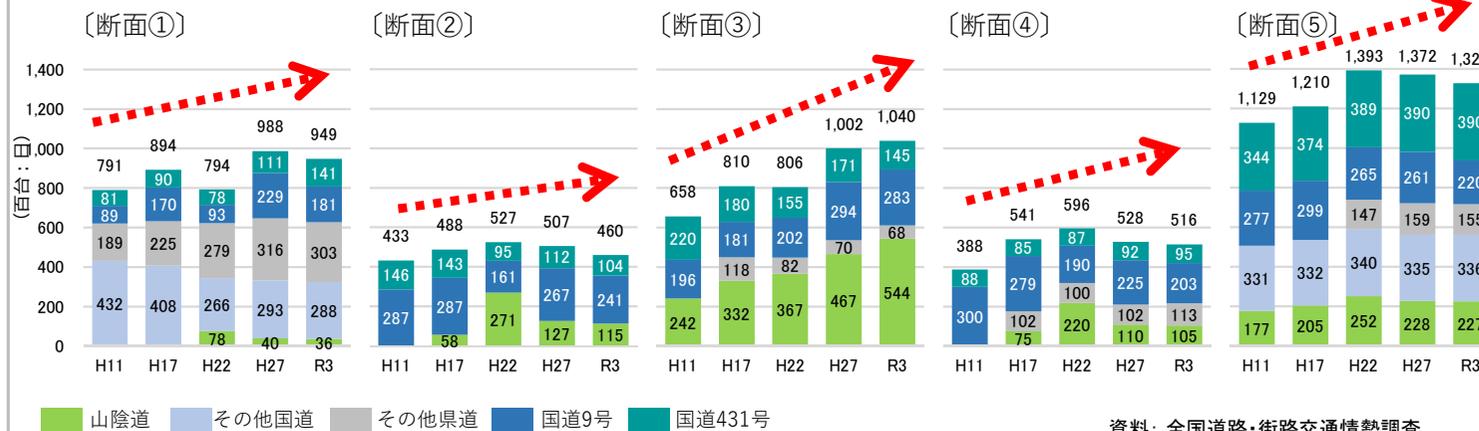
■ 圏域内主要道路の交通量と混雑度



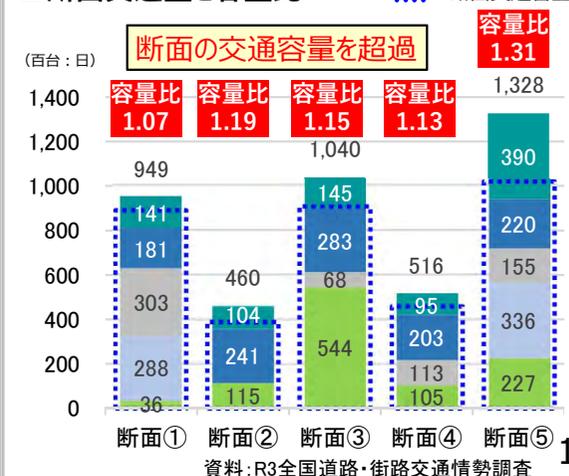
資料: R3全国道路・街路交通情勢調査

■ 断面交通量の推移

断面の交通量は増加傾向



■ 断面交通量と容量比



2. 圏域の道路ネットワーク状況

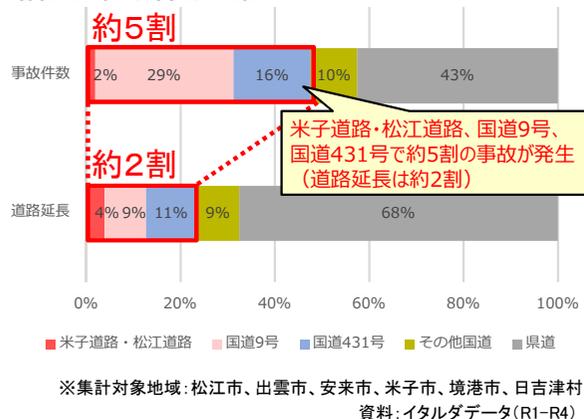
(2) 交通事故

- 中海・宍道湖圏域内の国道9号や国道431号では、死傷事故率が全国平均値を大きく上回る箇所が多数存在している。
- 道路延長の約2割を占める米子道路・松江道路・国道9号・国道431号において事故全体の約5割が集中しており、また、追突事故が約7割を占めている。
- 国道9号、国道431号は重大事故の件数が増加傾向にあり、喫緊の対応が必要な状況である。

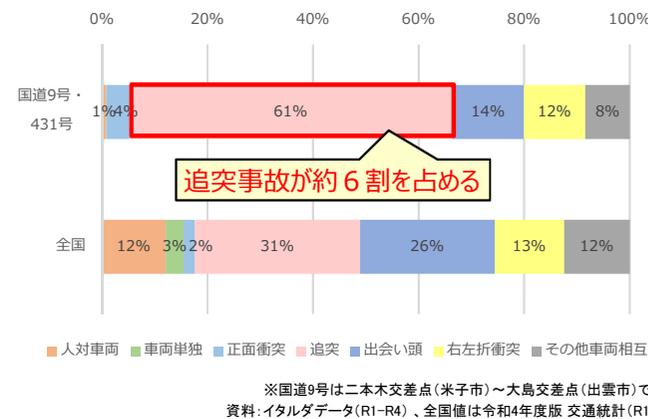
■ 中海・宍道湖圏域（国道9号・国道431号）の重大事故（死亡+重傷）発生箇所（R1~R4）



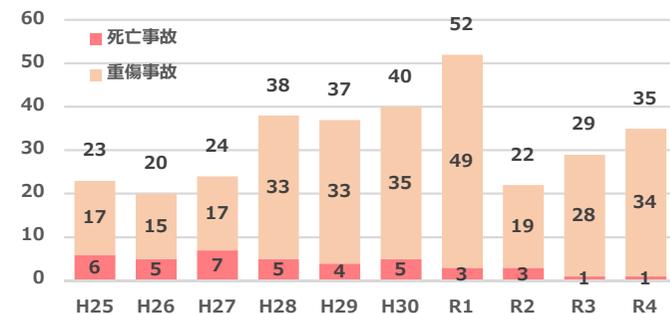
■ 中海・宍道湖圏域（6市村）の路線別事故件数内訳



■ 中海・宍道湖圏域（国道9号・国道431号）の事故類型



■ 中海・宍道湖圏域（国道9号・国道431号）の重大事故（死亡+重傷）件数の推移



2. 圏域の道路ネットワーク状況

(3) 島根半島地域の被災リスク

- 島根半島内は土砂災害警戒区域が多く、半島へのアクセスのために通過する出雲市街地や松江市街地は河川洪水・津波浸水リスクを抱えており、被災地支援の初動の遅れが懸念される。
- 令和6年7月の豪雨や平成30年2月の大雪の際には圏域内の道路で通行止めが発生しており、災害時に脆弱な道路ネットワークとなっている。
- 昨今の激甚化する風水害等の状況を踏まえると、災害時の交通機能を確保する道路ネットワークの整備は喫緊の課題である。



■ 大雪による通行止め等発生箇所



3. 地域の将来像

(1) 地域毎の将来像

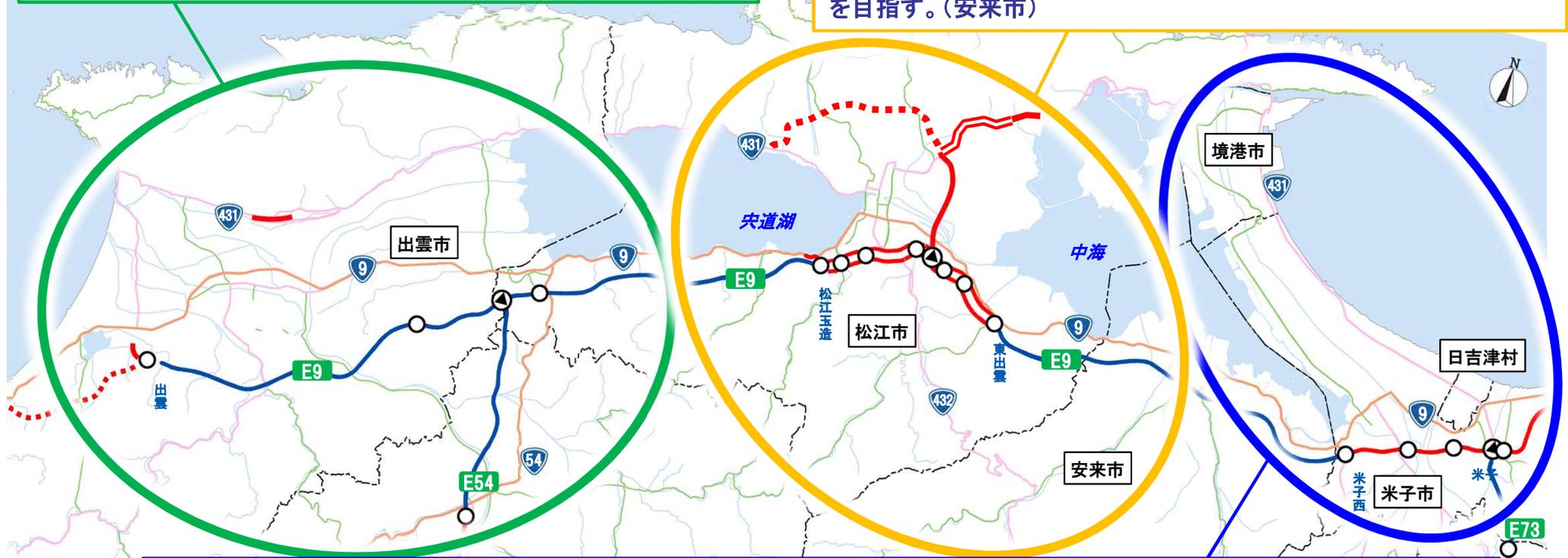
● 中海・宍道湖圏域では、出雲都市計画区域、松江圏都市計画区域、米子境港都市計画区域の3つのマスタープランにおいて、将来像が描かれている。

■ 出雲都市計画区域マスタープラン(H20.4)

- ・宍道湖・中海都市圏の中心都市としての高次都市機能の充実を図る。また、集積する高度医療・福祉機能を一層強化連携し、地域全体の医療福祉環境の向上を図る。(出雲地域)
- ・街路事業等による中心市街地整備や企業立地の促進、質の高い住環境の整備を行う。また、日本海、宍道湖及び北山地区などの景観及び環境を適切に保全しつつ、既存集落の環境整備や利便性の向上を図る。(平田地域)

■ 松江圏都市計画区域マスタープラン(H29.8)

- ・宍道湖等の優良な自然景観と松江城を中心とした地域固有の歴史・文化的資源及び玉造温泉等の観光資源を活かした「水と緑、歴史と教育を大切に、伸びゆく国際文化観光都市・松江」の実現を目指す。(松江市)
- ・活力ある市街地形成と産業基盤整備による都市的機能の増進を図るとともに、自然環境の保全、田園景観に配慮した魅力ある生活環境の形成に努め、「人が集い 未来を拓くものづくりと文化のまち」の実現を目指す。(安来市)



■ 米子境港都市計画区域マスタープラン(H27.3)

- ・圏域における都市的サービスを提供する中核都市としての役割を果たすと共に、広域交通・観光のターミナルとして圏域内の内外にわたる広域交流都市を目指す。(米子市)
- ・北東アジアゲートウェイとして、また、水産業加工産業としての特徴を活かした広域交流拠点を目指す。(境港市)
- ・住宅・工業・沿道型商業の拠点機能を目指す。(日吉津村)

3. 地域の将来像

(2) 松江圏都市計画区域マスタープラン

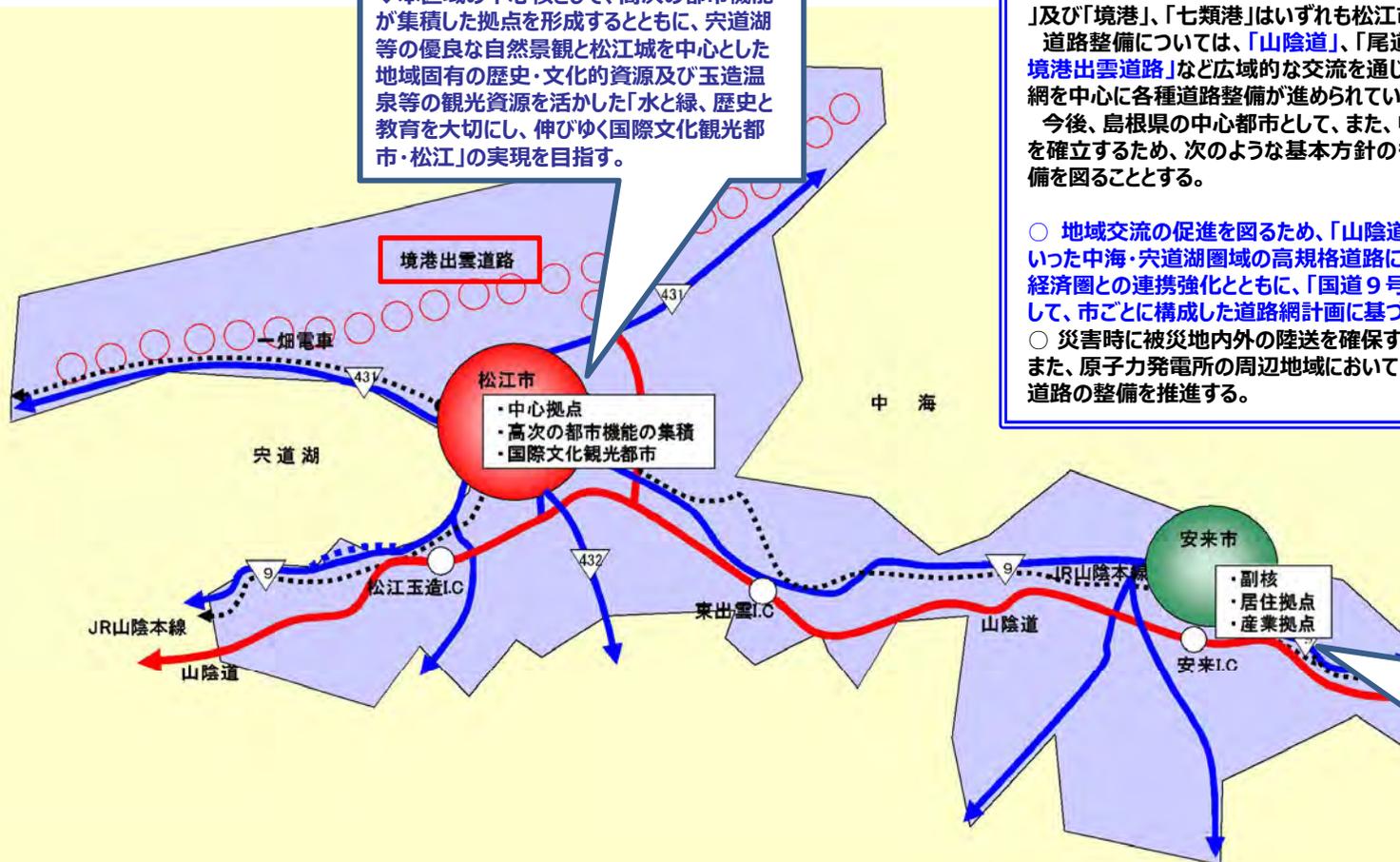
- 松江市は宍道湖等の優良な自然景観と松江城を中心とした地域固有の歴史・文化的資源及び玉造温泉等の観光資源を活かした「水と緑、歴史と教育を大切にし、伸びゆく国際文化観光都市・松江」の実現を目指している。
- 安来市は活力ある市街地形成と産業基盤整備による都市的機能の増進を図るとともに、自然環境の保全、田園景観に配慮した魅力ある生活環境の形成に努め、「人が集い 未来を拓くものづくりと文化のまち」の実現を目指している。

松江圏都市計画区域マスタープラン (H29.8 島根県)

松江市

【将来の市街地像】

◆ 本区域の中心核として、高次の都市機能が集積した拠点を形成するとともに、宍道湖等の優良な自然景観と松江城を中心とした地域固有の歴史・文化的資源及び玉造温泉等の観光資源を活かした「水と緑、歴史と教育を大切に、伸びゆく国際文化観光都市・松江」の実現を目指す。



<都市計画の決定の方針>

都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

① 交通施設の都市計画の決定の方針

a 基本方針

ア 交通体系の整備の方針

県都松江市を中核とする本都市計画区域は、島根県の政治、経済、文化の中心であり、県内外からの交通の要となっている。その交通体系は「国道9号」を基軸とする道路網のほか、JR、一畑電車といった鉄道により構成されており、空、海の発着である「出雲空港」、「米子空港」及び「境港」、「七類港」はいずれも松江市中心部から約20kmに位置している。

道路整備については、「山陰道」、「尾道松江線」が開通したのをはじめ、「地域高規格道路境港出雲道路」など広域的な交流を通じて地域の発展に果たす役割が大きい高速交通道路網を中心に各種道路整備が進められている。

今後、島根県の中心都市として、また、中海・宍道湖圏域の拠点都市としての都市交通体系を確立するため、次のような基本方針のもとにハード、ソフトの両面から計画的な交通網の整備を図ることとする。

- 地域交流の促進を図るため、「山陰道」、「境港出雲道路（松江だんだん道路を含む）」といった中海・宍道湖圏域の高規格道路による8の字ルートの形成や「尾道松江線」による広島経済圏との連携強化とともに、「国道9号」、「国道431号」等の東西の主要幹線道路を軸として、市ごとに構成した道路網計画に基づき、道路整備を推進する。
- 災害時に被災地内外の陸送を確保するための緊急輸送道路の整備及び耐震化を進める。また、原子力発電所の周辺地域においては、万が一の原子力災害に対応するための緊急避難道路の整備を推進する。

※道路・交通に関する部分を一部抜粋

安来市

【将来の市街地像】

◆ 本区域の副核として、活力ある市街地形成と産業基盤整備による都市的機能の増進を図るとともに、自然環境の保全、田園景観に配慮した魅力ある生活環境の形成に努め、「人が集い 未来を拓くものづくりと文化のまち」の実現を目指す。

3. 地域の将来像

(3) 出雲都市計画区域マスタープラン

- 出雲地域は宍道湖・中海都市圏の中心都市としての高次都市機能の充実を図る。また、集積する高度医療・福祉機能を一層強化連携し、地域全体の医療福祉環境の向上を目指している。
- 平田地域は街路事業等による中心市街地整備や企業立地の促進、質の高い住環境の整備を行う。また、日本海、宍道湖及び北山地区などの景観及び環境を適切に保全しつつ、既存集落の環境整備や利便性の向上を目指している。

出雲都市計画区域マスタープラン (H20.4 島根県)



3. 地域の将来像

(4) 米子境港都市計画区域マスタープラン

- 米子境港都市計画区域マスタープランでは、都市づくりの目標を達成するための都市計画の決定方針として、広域的な道路網の形成に資する「米子と境港を結ぶ主要な幹線道路」を構想路線として挙げている。
- 米子市は圏域内の都市的サービスの中核とした広域交流都市を目指し、境港市はアジアゲートウェイ及び境港を活かした広域交流都市を目指しており、日吉津村は住宅・工業・沿道型商業の拠点機能を目指している。

米子境港都市計画区域マスタープラン (H27.3 鳥取県)

境港市 (人口:約3.2万人)

- 【発展方向】
- ◆ 北東アジアゲートウェイとして、また、水産加工産業としての特徴を活かした**広域交流拠点**を目指す
- 【広域的な位置づけ】
- ◆ 港の特徴を活かした**広域交流都市**

米子と境港を結ぶ主要な幹線道路

米子と境港を結ぶ主要な幹線道路

凡例	
	住宅地
	商業・業務地
	工業・流通業務地
	主な公園
	鉄路処理施設
	広域サービス施設
	まとまった農地
	森林地域
	自然環境を保全する地域
	水面
	空港・大規模施設
	広域都市拠点
	産業拠点
	交通拠点
	レクリエーション地
	仮に10年以内に進歩的に整備することを目標とする路線
	仮に20年以内に整備することを目標とする路線
	構想路線
	幹線道路
	インターチェンジ
	鉄道
	市街化区域
	都市計画区域



<都市づくりの目標>

- 1) 広域的視点での都市機能の強化 (交通機能の強化)
 - 重要港湾境港や米子空港の機能拡張、中国横断自動車道岡山米子線や山陰道（国道9号米子道路）などの高速道路ネットワークの整備を進める。
 - 国道9号、国道431号、県道米子境港線、江島幹線といった地域の幹線道路を相互に結ぶ道路の整備を進める。
- (広域都市拠点の機能強化)
 - 広域都市拠点として、都市中心部の都市機能を強化する。特に、米子駅周辺の活性化に向けて都市基盤施設の整備等を図る。
- (産業拠点の育成)
 - 工業団地の未利用地の有効活用を図るなど、産業拠点を育成していく。
- (中心市街地と郊外が調和した都市構造の形成)
 - 国道431号沿線等の郊外における開発が進行しているが、中心市街地と郊外の適切な役割分担を図り、双方が調和した都市構造を形成していく。
- 3) 地域資源を活かした魅力づくり
 - 個性的な地域資源を保全し存分に有効活用していくことで、観光やレクリエーションなどの充実を図る。
- 6) 防災減災・防犯都市づくり
 - 地域防災計画や鳥取県犯罪のないまちづくり推進計画を踏まえ、ハード（避難路や防災拠点の確保、建築物の不燃化、防犯環境の構築等）やソフト一体の対策を進める。
 - 特に、弓浜半島の津波・原子力災害に対して広域的避難のための都市施設（道路等）の整備を検討するとともに、木造建築物の密集地において、住環境の防災性の向上を図る

※道路・交通に関する部分を一部抜粋

日吉津村 (人口:約0.3万人)

- 【発展方向】
- ◆ 住宅・工業拠点としての機能をもつ
 - ◆ 国道431号沿道は商業拠点としての機能をもつ
- 【広域的な位置づけ】
- ◆ 住宅・工業・沿道型商業拠点

米子市 (人口:約14.5万人)

- 【発展方向 (旧市内)】
- ◆ 圏域における都市的サービスを提供する中核都市としての役割を果たすと共に、広域交通・観光のターミナルとして圏域内の内外にわたる**広域交流都市**をめざす
- 【広域的な位置づけ (旧市内)】
- ◆ 圏域内の内外にわたる**広域交流都市**

※図中の着色は、具体的な区域を示しているものではありません。

3. 地域の将来像

(5) 圏域全体での取り組み

●「第2期 中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略」において、県境を越えた広域連携により、圏域人口60万人の維持が基本目標となっており、交通ネットワークの形成として「8の字ルート」が位置付けられている。

- ・1994年6月 中海圏域4市連絡会議発足
- ・1995年2月 中海圏域4市連絡協議会発足
- ・2007年7月 中海圏域4市連絡協議会を改組し、中海市長会を設立
- ・2008年4月 出雲都市計画区域マスタープラン策定
- ・2012年4月 中海市長会を発展的に改組し、中海・宍道湖・大山圏域市長会を設立
- ・2013年3月 中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン策定
- ・2015年3月 米子境港都市計画区域マスタープラン策定
- ・2015年7月 中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略策定
- ・2017年8月 松江圏都市計画区域マスタープラン策定
- ・2020年3月 第2期 中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略策定

＜中海・宍道湖・大山圏域市長会の構成＞

構 成 員：米子市・境港市・松江市
・出雲市・安来市

オブザーバー：大山圏域7町村（日吉津村
・大山町・南部町・伯耆町
・日南町・日野町・江府町）
(並びは総務省全国地方公共団体コード順)

交通ネットワークの形成として、「8の字ルート」等の早期形成を掲げている

鳥取・島根 中海・宍道湖・大山圏域市長会 第2期地方版総合戦略

位置づけとねらい
県境を越えた広域連携

- 日本海側を代表する拠点
- 東アジアのゲートウェイ
- 常住人口の拡大および山陰地方における人口流出のダム効果

基本目標
圏域人口60万人の維持

- 産業集積による仕事・雇用の創出
- 地域資源（ヒト・モノ）の発掘と働き上げ、そして国内外への発信
- 世界に誇れる歴史・文化のさらなる活用

1 国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成

- 東アジアをはじめ世界に向けたゲートウェイ機能のさらなる活用
 - ・国際定期航路の活用（空路：米子/香港、上海、ソウル他）
 - ・海路：境港～東海～ウラジオストク、境港～釜山、境港～上海航路）
- インド（ケララ州）・台湾（台北市）との経済交流の拡大
 - ・インドでのプログラミング言語 Ruby を介した SE 人材の育成・確保
 - ・輸出や交流人口の拡大
- 圏域の特徴ある資源の活用と産業の発展
 - （安東の特産加工技術を基にした金属製造業、境港の水産加工業、松江の工下産業、米子の医療、出雲の菓子部局をはじめとする製造業、大山の農産資源）
 - ・地域を支える「ものづくり、企業への支援
 - ・地産外消の推進
 - ・圏域内高等教育機関との連携
- 国内およびインバウンド観光の推進
 - ・受け入れ環境の推進
 - ・観光人材の育成と情報発信
 - ・観光地づくりのための組織体制強化

2 未来をひらく交通ネットワークの形成

- 2つの湖を介する「8の字ルート」等の早期完成
 - ・境港（出雲境港）～境港（米子）～境港（山陰）～江府～三次道路、米子遊および山陰道の4車線化等の早期完成
- 重要港湾境港の利便性向上
 - ・港湾施設および内航ネットワークの充実
- 新幹線ネットワークの整備
 - ・中国横断新幹線（伯耆新幹線）、山陰新幹線の整備促進
- 航空路線の充実
 - ・高気と連携した圏域内（出雲・米子）空港の既存路線利用促進と新たな定期路線の開設

3 恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

- 圏域への移住・定住の促進
 - ・Uターン等の取り組みの推進
 - ・圏域内人口の創出
 - ・次代を担う人材育成
 - ・多文化共生社会の推進
 - ・公共施設の共同利用の推進
- 自然環境の保全と活用
 - ・中海・宍道湖・大山ならびに日本海、島根半島、シオバーク等の自然を活用した交流人口の拡大
- 健康長寿圏域の形成
 - ・圏域内医療・福祉機関との連携
- 圏域内公共交通の利便性向上
 - ・様々な需要に応じた交通サービスの検討

住みたくなる圏域づくり

県境を越えた広域連携による住みたくなる圏域づくり

海外との交流拡大による地域経済の活性化

海路・空路での東アジアへの定期便

ウラジオストク、ソウル、釜山、上海、香港、台湾（台北市）、インド（ケララ州）との経済交流

都市部へのアクセス性の向上

✓東京・大阪等の大都市圏へのアクセスが容易な2つの空港
✓山陰・四国への高速道路も整備

本圏域は自然豊かで穏やかな暮らしを満喫できる環境であり、都市部への

圏域を結ぶ高速鉄道（8の字ルート）の早期完成

山陰新幹線、中国横断新幹線（伯耆新幹線）整備への動きを加速！

心豊かに、安心して暮らせる環境の活用

① 充実した子育て環境
圏域の待機児童はゼロになっており、子育てしやすい環境が整っています。

② 国内トップレベルの医療・介護体制

高度医療 先進医療 2ヶ所立地

国立大学附属病院

ロボット支援手術（鳥取大学附属病院）

1人あたり医療費 約1.6倍

1人あたり介護人材 約1.3倍

③ 豊かな自然や歴史文化に恵まれた地域
国立公園大山ならびに島根半島・宍道湖中海ジオパークなど自然環境が豊か。また、弥生時代の遺構、たたら製鉄や砥下町の風情が湧く歴史文化が息づく圏域です。

中海・宍道湖・大山圏域市長会

3. 地域の将来像

(6) まとめ

- 各都市計画区域マスタープラン等において、広域交流拠点や高次都市としての機能の充実、産業集積等による圏域人口の維持といった将来像が描かれている。
- 中海・宍道湖圏域の将来像を実現するためには、「山陰道」や「境港出雲道路」、「境港米子道路」等による『8の字ルート』の早期形成が道路整備方針の骨幹とされている。

■中海・宍道湖圏域の将来像（まとめ）

出雲都市計画区域

【地域の将来像】

(出雲地域)

- ・宍道湖・中海都市圏の中心都市としての高次都市機能の充実
- ・地域全体の医療福祉環境の向上

(平田地域)

- ・中心市街地整備、企業立地促進
- ・質の高い住環境整備
- ・日本海、宍道湖等の景観・環境保全
- ・既存集落環境整備、利便性向上

【道路整備方針】

- ・山陰道と連携した拠点到ふさわしい広域道路ネットワークの確立
(境港出雲道路、広域幹線道路充実)

松江圏都市計画区域

【地域の将来像】

(松江市)

- ・宍道湖等の優良な自然景観と地域固有の歴史・文化的資源及び玉造温泉等の観光資源の活用

(安来市)

- ・活力ある市街地形成と産業基盤整備による都市的機能の増進
- ・自然環境の保全、田園景観に配慮した魅力ある生活環境の形成

【道路整備方針】

- ・地域交流の促進のため、中海・宍道湖圏域の高規格による8の字ルートの形成
- ・市の道路網計画に基づく整備推進

米子境港都市計画区域

【地域の将来像】

(米子市)

- ・都市的サービスを提供する中核都市
- ・圏域内の内外にわたる広域交流都市

(境港市)

- ・北東アジアゲートウェイとしての広域交通拠点

(日吉津村)

- ・住宅・工業・沿道型商業の拠点機能

【道路整備方針】

- ・国道9号、国道431号、県道米子境港線等の地域の幹線道路を相互に結ぶ道路整備

圏域全体での取り組み

【地域の将来像】

住みたくなる圏域づくり
”圏域人口60万人の維持“

- ・国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
- ・未来をひらく交通ネットワークの形成
- ・恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

【道路整備方針】

- 2つの湖を介する「8の字ルート」の早期完成
- ・境港出雲道路、境港米子道路、米子道 及び山陰道の4車線等の早期実現

4. 中海・宍道湖圏域における近年の検討状況

(1) 中海・宍道湖8の字ネットワーク整備による効果分析検討会より

- R4～5年に、「中海・宍道湖8の字ネットワーク」整備によって発現すると想定される経済効果等について、広い視点で検討・分析を行うことを目的として、経済界で効果分析検討会が開催されており、以下のとおりまとめている。
- 中海・宍道湖圏域は山陰地方で唯一の「60万人都市圏」であり、山陰地方の産業活動を牽引する役割が求められる。
- 今後の更なる人口減少社会を見据えても、この「60万人都市圏」の持続的な発展が必要であり、そのためには圏域内に分散する資源の連携や圏域内外の人・モノの流れを活性化させる「中海・宍道湖圏域の道路ネットワーク」の整備が有効である。

令和5年8月
中海・宍道湖8の字ネットワーク整備による効果分析検討会
(事務局) 米子商工会議所、松江商工会議所、(一社) 中国経済連合会

「中海・宍道湖8の字ネットワーク整備による効果分析検討会」の成果について

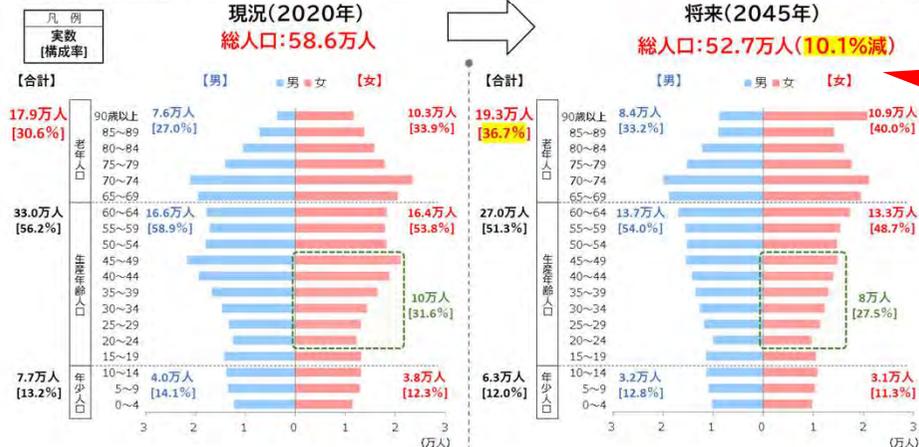
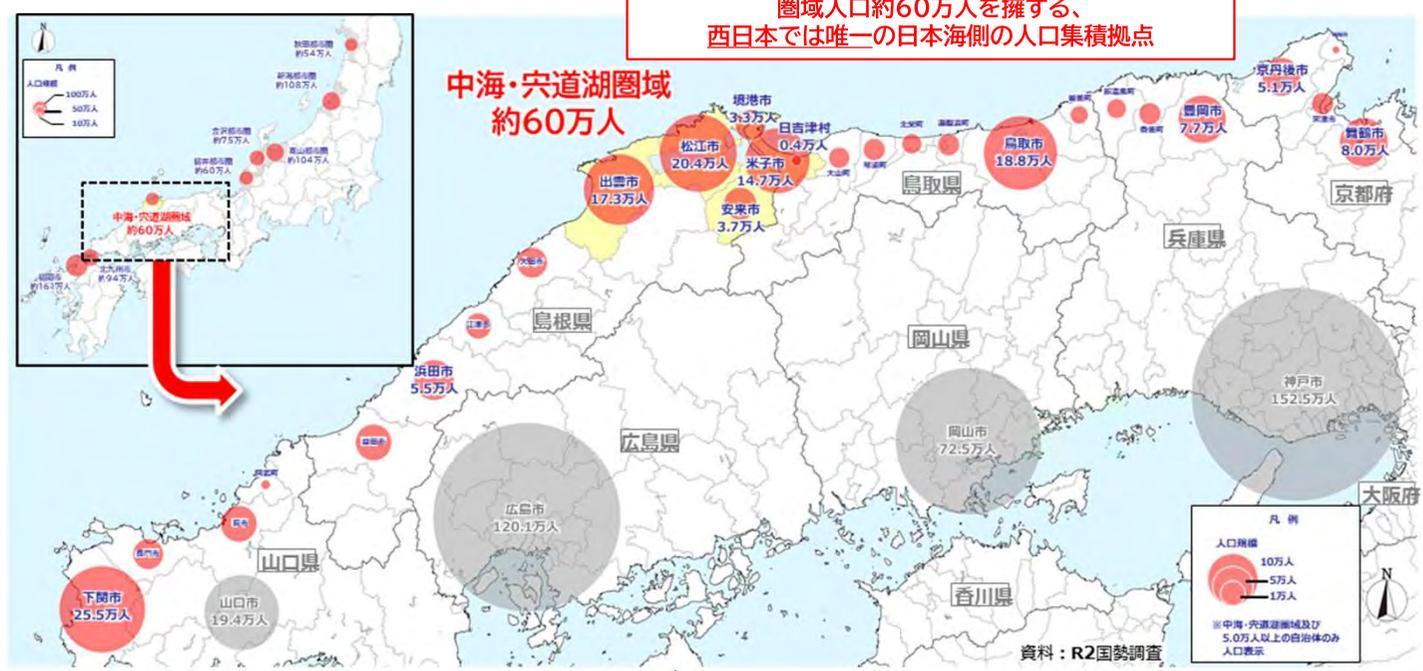
米子商工会議所(会頭 坂口平兵衛)、松江商工会議所(会頭 田部長右衛門)および一般社団法人中国経済連合会(会長 清水希茂)は共同で、「中海・宍道湖8の字ネットワーク整備による効果分析検討会」を開催し、同ネットワーク整備による効果等について分析・検討を実施しました。このたび、同検討会の成果をとりまとめたので、お知らせします。

1. 検討の趣旨
中海・宍道湖圏域は、山陰地方では唯一10万人以上の3都市が連担する「60万人都市圏」であり、山陰地方の産業活動を牽引する役割が求められています。今後の更なる人口減少社会を見据えても、この「60万人都市圏」の持続的な発展が必要であり、そのためには圏域内に分散する資源の連携や圏域内外の人・モノの流れを活性化させる「中海・宍道湖8の字ネットワーク」の道路整備が有効であると考えています。本検討は、この有効性を確認するため、「中海・宍道湖8の字ネットワーク」整備によって発現すると想定される経済効果等について、広い視点で検討・分析を行ったものです。

2. 検討成果(概要)
○背景、課題
中海・宍道湖圏域では、概ね20年後には人口が約1割減少する見込みであり、人口減少による交通(移動)量減少は、地域の経済減退や都市サービス(生活の質)の低下を引き起こし、更なる人口減少等をもたらすスパイラルが危惧される。
○調査・分析内容
中海・宍道湖圏域の現状分析、モデルによる道路整備の経済効果分析、圏域内の企業・地域代表者の方々へのヒアリング調査、圏域内の企業経営者・関係者の方々へのアンケート調査等を実施。
○検討結果、今後の対応の方向性
道路ネットワーク整備は、人口減少下でも交通(移動)の利便性をあげることで交通(移動)量の維持・増加が見込まれ、圏域の付加価値額を押し上げる効果が期待される。(整備にあわせた圏域内の付加価値創出の取り組みは不可欠)
アンケートの結果、「中海・宍道湖圏域の人口が将来1割減少したとしても、経済規模を維持・拡大すべき」と回答した方が9割以上。
中海・宍道湖8の字ネットワーク整備をきっかけとして、圏域内の企業活動など産業づくり・地域づくりの活性化に向けた様々な取り組みにより、約850億円/年の付加価値額拡大を目指すべき、との結論を得た。

3. 検討成果の活用方法
この検討成果については、中海・宍道湖圏域の行政機関や経済団体、企業等に情報提供するとともに、中海・宍道湖8の字ネットワークの整備促進に向けた要望活動等で活用してまいります。

以上



中海・宍道湖8の字ネットワーク整備による効果分析検討会

<構成員>

島根大学教授	飯野 公央
筑波大学名誉教授	石田 東生
神戸大学教授	小池 淳司
広島大学教授	藤原 章正
米子商工会議所会頭	坂口 平兵衛
松江商工会議所会頭	田部 長右衛門
中国経済連合会専務理事	谷口 雅彦

出典：国勢調査(令和2年) 出典：国立社会保障・人口問題研究所 地域別将来推計人口(平成30年推計)

5 中海・宍道湖8の字ネットワークの役割

中海・宍道湖・大山圏域の人口は、概ね20年後には**約1割**減少

ひとりひとりの**移動範囲・頻度**を今より**拡大**させ、
人口減少下でも**人・モノ・情報・知識**等の
交流を高め、**圏域の経済**を**維持・拡大**

中海・宍道湖
8の字ネット
ワークの貢献

↓
圏域内の地域資源を活用した**付加価値の高い製品の生産・
サービス提供**を行うとともに、**関係人口の拡大、
地産外商**※等を推進し**雇用を維持・拡大**させる。

※圏域内で採取・生産・製造された商品を圏域外で流通及び販売する取組

↓ 市長会が掲げる**将来像の実現に貢献**

中海・宍道湖・大山圏域市長会が
掲げる「**圏域の将来像**」

※中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョンより

将来像

水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から未来につなげる

～あたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域～

(1) 中海・宍道湖8の字ネットワーク整備による効果分析検討会より（想定される使われ方事例）

製造

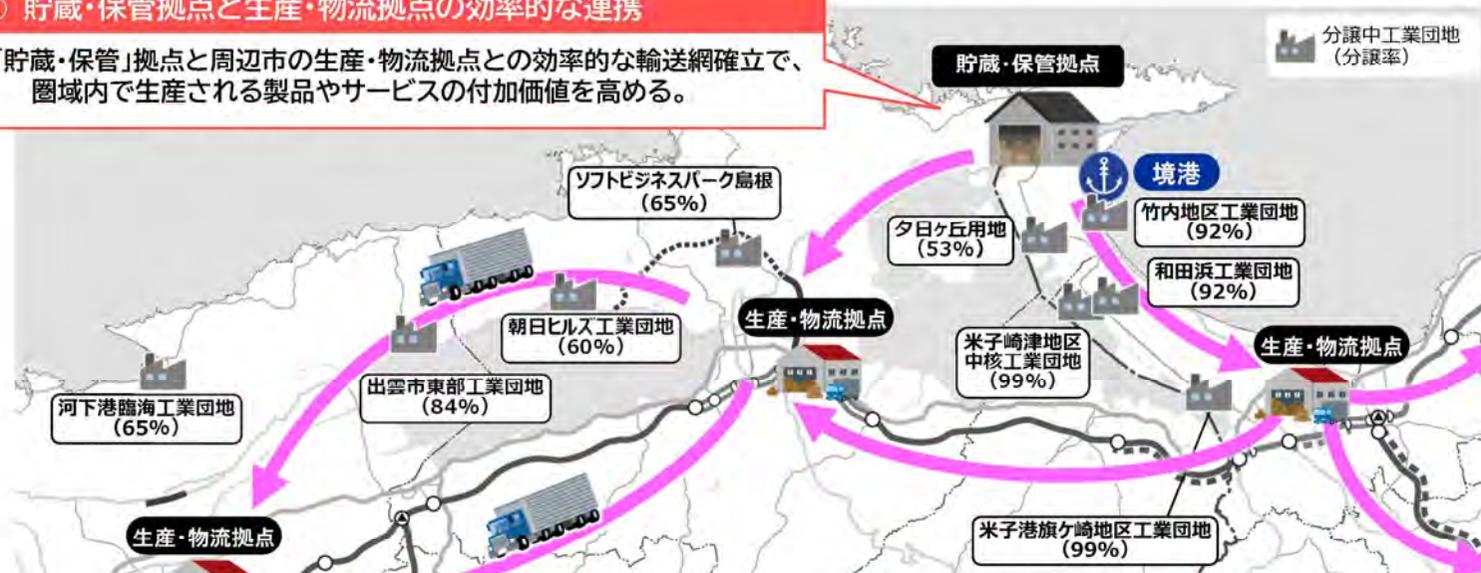
モノの移動効率UPで企業を元気に！

圏域内東西、境港・米子間の物流効率の向上により
企業の競争力を支援

圏域内の移動負担が軽減されることで、中海・宍道湖北側や弓ヶ浜半島の工業団地等に企業が進出、設備投資されることで雇用が増加、及び物流の効率化で輸送コストが低減され製造業の競争力が強化される。

使い方① 貯蔵・保管拠点と生産・物流拠点の効率的な連携

境港の「貯蔵・保管」拠点と周辺市の生産・物流拠点との効率的な輸送網確立で、圏域内で生産される製品やサービスの付加価値を高める。



使い方② 自動運転車両を活用した8の字巡回(共同)輸送

自動運転車両を用いた8の字循環便(共同配送便)が実現すれば、輸送コスト低減により圏域外企業との競争力が強化。



資料（分譲率）：鳥取県提供データ(R3.3時点)、島根県提供データ(R2.10.1時点)

4. 中海・宍道湖圏域における近年の検討状況

(1) 中海・宍道湖8の字ネットワーク整備による効果分析検討会より（想定される使われ方事例）

観光

漁村や神社の秘めた魅力を開拓！

漁村・神社仏閣・観光拠点・空港・港湾の周遊性向上による観光産業の活性化

圏域内の交通拠点・観光資源間が周遊しやすくなることで、主要な観光地だけでなく、周辺の漁村や神社仏閣への観光客（関係人口）が増加する。



(1) 中海・宍道湖8の字ネットワーク整備による効果分析検討会より（想定される使われ方事例）

安全・安心

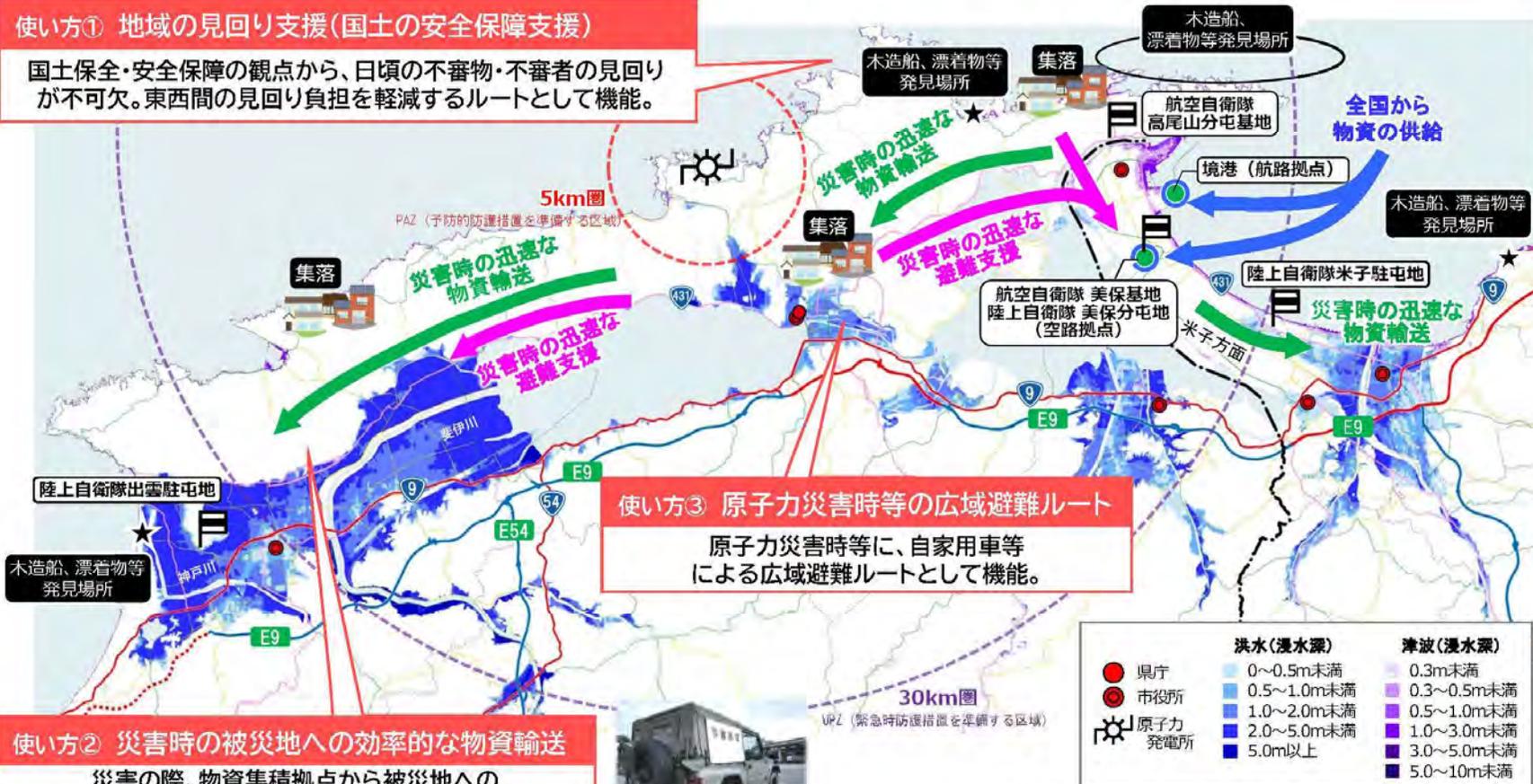
いざという時でも安心できる住まい環境を提供！

災害時等の迅速な避難や物資輸送を支援

中海・宍道湖8の字ネットワークは、災害時等に日本海側の漁村集約等を含め圏域内における効率的な移動を可能にするとともに、国土保全・安全保障の観点から不審物・不審者の見回り負担を軽減するルートとして機能することで、圏域内に住み続けることの安心感を提供する。

使い方① 地域の見回り支援(国土の安全保障支援)

国土保全・安全保障の観点から、日頃の不審物・不審者の見回りが不可欠。東西間の見回り負担を軽減するルートとして機能。



使い方③ 原子力災害時等の広域避難ルート

原子力災害時等に、自家用車等による広域避難ルートとして機能。

使い方② 災害時の被災地への効率的な物資輸送

災害の際、物資集積拠点から被災地への物資輸送ルートとして機能。



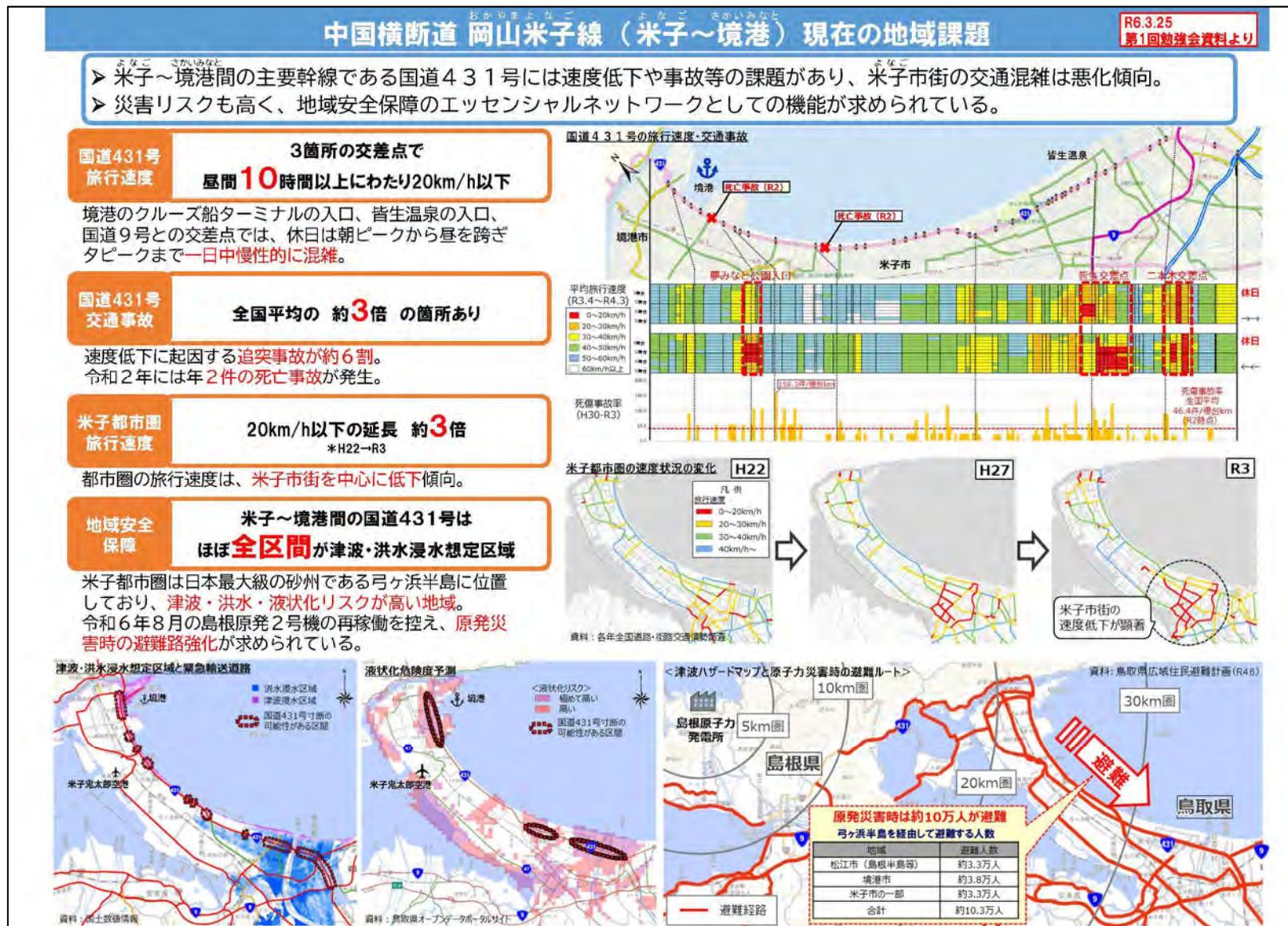
	洪水(浸水深)	津波(浸水深)
● 県庁	0~0.5m未満	0.3m未満
● 市役所	0.5~1.0m未満	0.3~0.5m未満
☼ 原子力発電所	1.0~2.0m未満	0.5~1.0m未満
	2.0~5.0m未満	1.0~3.0m未満
	5.0m以上	3.0~5.0m未満
		5.0~10m未満

出典：洪水浸水想定区域・津波浸水想定区域：国土数値情報木造船、漂着物等発見場所：新聞記事等

4. 中海・宍道湖圏域における近年の検討状況

(2) 米子・境港地域道路整備勉強会より

- 令和6年には、国、鳥取県、米子市、境港市、日吉津村が連携して米子・境港地域の道路整備の必要性について検討することを目的として、勉強会が2度開催されている。
- 勉強会では、米子～境港間における地域課題のほか、求められる機能や高規格道路の必要性、概略ルート・構造の検討に際し配慮すべき事項等を取りまとめた。



(2) 米子・境港地域道路整備勉強会より

米子～境港間に求められる機能と配慮すべき事項

3

- 地域の将来像を達成するためには、米子～境港間の高規格道路の整備が必要であり、産業の活性化や信頼性の高いネットワークの確保、広域周遊観光の促進などの機能が求められる。
- 引き続き、配慮すべき事項を踏まえながら、国・県・市村が連携し、概略ルート・構造の検討や、整備方針等について検討。

米子～境港間に求められる機能

産業の
活性化

信頼性の高い
ネットワークの確保

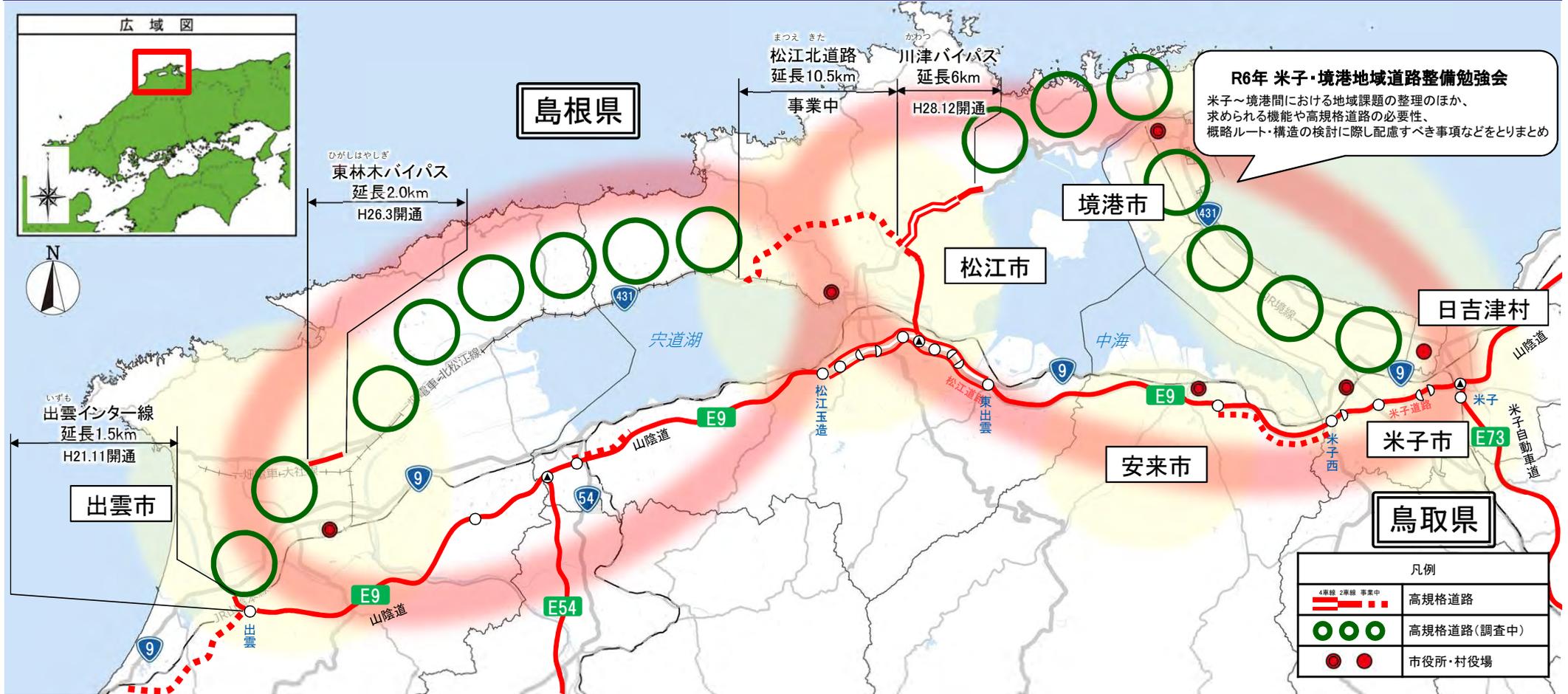
広域周遊
観光の促進

救急医療機関への
速達性の向上

交通安全の
確保



5. 中海・宍道湖圏域の道路ネットワークの必要性



中海・宍道湖圏域の発展を支えるためにも圏域を連携する道路ネットワークの整備が必要

【地域の将来像】

住みたくなる圏域づくり "圏域人口60万人の維持"

- ・国内外を視野に入れた力強い産業圏域の形成
- ・未来をひらく交通ネットワークの形成
- ・恵まれた生活環境を生かした圏域の形成

圏域の主な現状

圏域北側の整備が進んでおらず、高規格道路へのアクセス性が低い

観光地間のアクセスに時間を要する

土砂災害、河川洪水、津波浸水のリスク

救急搬送時の速達性が確保されていない